

レジューメ集



主催：多摩大学アクティブ・ラーニング支援センター

目 次

主催者挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P2

プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P3

A 会場 (101 教室) レジュメ・・・・・・・・ P5

B 会場 (201 教室) レジュメ・・・・・・・・ P39

C 会場 (112 教室) レジュメ・・・・・・・・ P65

アクセス・スクールバス時刻表・・・・ P92

※各レジュメの右上に、発表部門及び分野カテゴリを記載しています。

開催のご挨拶

初冬の候、皆様ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

この度はご多用のところを多くの方々にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

多摩大学では開学以来、大学内の机上の学修にとどまらず、学生が地域をはじめとする学外のフィールドに出て自らの手と足を動かして活動し、行政・企業・NPO・地域団体・地域住民などのさまざまな関係主体と連携しながら、問題発見と課題解決を目指すゼミ活動を行ってまいりました。

一般的に“学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法”と定義されるアクティブ・ラーニングですが、本学が取り組んできた学習体系はまさにその先鞭をつけるものであったと自負いたしております。

そして2016年度は、開学以来実践してきたアクティブ・ラーニングをさらに活性化すべく、「アクティブ・ラーニング支援センター」を設置し、学生の学修を支援しています。

2016年度も多種多様なプロジェクト、研究、アクティブ・ラーニングプログラムが展開されました。本活動の成果を広く共有する機会として『2016年度 多摩大アクティブ・ラーニング発表祭』を開催させていただきます。

地域の皆様はじめ、行政、企業、NPO、教育機関の皆様と交流を深めるとともに、新しいプロジェクト等が生まれるきっかけづくりになれば幸いです。

どうかお時間の許す限りごゆっくりとお過ごしください。

2016年度 多摩大アクティブ・ラーニング発表祭 プログラム

部門<記号>:プロジェクト型学習<●>、ALプログラム<◆>、研究<■>
分野カテゴリー<略>:地域<地>、グローバル<グ>、ビジネスIQT<ビ>

9:30 受付開始

第 1 部									
A会場：101教室				B会場：201教室			C会場：112教室		
司会:酒井		補佐:大森(缺)		司会:梅澤		補佐:飯田		司会:中庭	
開会の挨拶 多摩大学アクティブ・ラーニング支援センター長 金美徳									
招待講演 ①	信用金庫における弱い紐帯形成と情報収集・蓄積 ～たましんモデルの提示～ (商工総研 中小企業経営論文応募論文)		東京経済大学 山本 聡ゼミの皆様						
	瑞で繋ぐ多摩のまちづくり ～MIZU×TAMAプロジェクト～ (多摩の学生街づくりコンベンション2016本選出場)								
10:40 ～10:50	教室移動 (10分)								
10:50	A-1 ■地	多摩ニュータウン再生に向けた 新たな活性化策の研究	インターゼミ(多摩 学苑)	B-1 ●地	ビジネスプラン発表ー1 スライド共有サービス 「事業構想入門講座」	見山謙一郎プロジェクトゼミ	C-1 ●地	熱海観光地域づくり提案プロジェクト	中庭光彦ゼミ(創造 的観光地づくり研究 会)
11:05	A-2 ●地	日の出町産業振興プロジェクト	奥山雅之ゼミ		ビジネスプラン発表ー2 こどもの自由研究アシスト		C-2 ●地	みんなの食卓プロジェクト2016	梅澤佳子ゼミ
11:20	A-3 ●ピ	F@Nプロジェクト ～スマホ広告に関する消費者行動研究	酒井麻衣子ゼミ	B-2 ●地	多摩市立諏訪小学校放課後子ども教室 「諏訪小ふれんず英語であそぼう！」プロジェクト	石川晴子ゼミ	C-3 ●地	近隣交流七輪プロジェクト2016	梅澤佳子ゼミ
11:35	A-4 ■ピ	IDカードによる適応型入退室管理システム	出原至道ゼミ 永野 文弥	B-3 ■グ	格差を考える	下井直毅ゼミ	C-4 ●地	雇用安心循環モデルの提案	インターゼミ(地方再 生班)
11:50 ～13:00	昼休み (70分) ※学食にて昼食懇親会 (招待者のみ)								
第 2 部									
司会:奥山		補佐:浜田		司会:松本		補佐:増田		司会:佐藤	
13:00	A-5 ●地	小豆島産業振興プロジェクト	奥山雅之ゼミ	B-4 ●地	足利市活性化のための観光ビジネス開発プロジェクト	松本祐一ゼミ	C-5 ◆地	第5回 多摩「志」企業探検バスツアー参加報告	ALプログラム(志企 業探検バスツアー)
13:15	A-6 ●地	平成28年度大学コンソーシアム八王子 学生企画補助金対象事業 世代間交流八王子駅前サロンプロジェクト	梅澤佳子ゼミ	B-5 ■地・グ	長崎が拓いたアジアとヨーロッパの交流	インターゼミ(アジア ダイナミズム班)	C-6 ■ピ	シリアスゲームによる就職活動支援 ～業界知識の獲得を目的として	出原至道ゼミ 阿武 省吾
13:30	A-7 ◆	志プロジェクト ～志企業の会社案内作成プロジェクト	ALプログラム (志プロジェクト)	B-6 ●地	ローカル飲道のビジネスモデル	相原伸也ゼミ	C-7 ●地	日本におけるサードプレイスの実態調査プロジェクト	中庭光彦ゼミ(サード プレイス研究会)
13:45				B-7 ■ピ	マイナンバーに関する意識調査	齋藤S裕美ゼミ	C-8 ●地	奥多摩特産「治助芋」商品開発プロジェクト	松本祐一ゼミ
14:00 ～14:10	教室移動 (10分)								
招待講演 ②	福住プロジェクトー地域との連携ー		帝塚山大学 文学 部 日本文化学科 の皆様						
	「奈良県の不登校の子どもたちを支援するプロジェクト」 報告		帝塚山大学大学院 心理科学研究科、 帝塚山大学 心理 学部心理学科の皆様						
14:45 ～15:00	休憩 (15分)								

部門＜記号＞:プロジェクト型学習＜●＞、ALプログラム＜◆＞、研究＜■＞
分野カテゴリー＜略＞: 地域＜地＞、グローバル＜グ＞、ビジネスICT＜ビ＞

第 3 部							
A会場：101教室			B会場：201教室		C会場：112教室		
	司会:杉田	補佐:久保田		司会:清松	補佐:中澤	司会:村山 補佐:椎木	
15:00	A-8 ●ゲ	インバウンド市場拡大に向けて	杉田文章ゼミ	多摩グリーンライフプロジェクト2016 B-8 ●地	C-9 ●地	多摩祭野外イベントプロジェクト 松本祐一ゼミ	
15:15	A-9 ■ピ	オリジナルアニメ制作「白鶴様奇譚」 ～多摩に精神的拠り所を～	彩藤ひろみゼミ 横山大悟		C-10 ■ピ	シリアスゲームによる企業経営学習支援 出原至道ゼミ 下江 雄也	
15:30	A-10 ●地	地域を語る、青春を綴る ～メディア実践論、この一年～	木村知義プロジェクトゼミ「メディア実践論」		C-11 ■ピ	多摩地域のパワースポットの魅力を脳波計測による生理学的指標の観点から分析する試み 良峯徳和ゼミ	
15:45	A-11 ●地	さくらプロジェクト	奥山雅之ゼミ		C-12 ●地	ゲストハウスの現状調査と 新ビジネスプラン提案プロジェクト 中庭光彦ゼミ(観光ビジネス研究会)	
16:00	A-12 ■地	地震発生後の対応について ～ICTを活かした問題の解決！次の災害に備えて	インターゼミ(環境・エネルギー班)	B-10 ●地	「眠り」で多摩地域を元気にする！ ～(株)エムールとの共同研究プロジェクト	C-13 ●地	広東財経大学交換留学生による 梅澤ゼミ2ヶ月のアクティブラーニング報告 梅澤佳子ゼミ
16:15 ◆	A-13 ◆	多摩大学・広東財経大学教育交流プログラム (アクティブラーニング)in 広州	ALプログラム (広東財経大交流) ハートル 萩原 誠 阿部慎吾 荒井綿花 高橋昇希	B-11 ●地	開放特許ライセンスを活用した ビジネスプラン創出プロジェクト		
16:30 ～16:40	教室移動 (10分)						
16:40	来賓ご挨拶 帝塚山大学副学長 蓮花一己 様						
16:50	閉会の挨拶 多摩大学副学長 久恒啓一						

信用金庫における弱い紐帯形成と情報収集・蓄積 ～たましんモデルの提示～

東京経済大学 経営学部山本聡ゼミナール
論文班

1. 問題意識：地方創生における金融機関の役割と課題

(1) 地方創生

- ・戦略を重視→情報が重要 ※数値化されない情報も重要視
- ・地域金融機関に期待される役割…①情報収集・蓄積
②情報の解釈と自治体への提供

(2) 地域金融機関の情報収集・蓄積

- ・地域との「つながり」から情報を収集（関連：地域密着型金融）

(3) 地域密着型金融の取組みに関するアンケート

期待される役割を果たしていない

- ・地方創生や地域経済活性化に向けた取り組みへの参画…46.7%
- ・目利き能力を発揮し、顧客企業の事業性を評価する能力…32.3%
- ・事業再生・業種転換支援…24.5%
- ・顧客企業に対するコンサルティング能力の発揮・日常的継続的な接触姿…55.4%

2. 既存研究と分析視点、分析対象

(1) 既存研究

- 地域金融機関について

「つながり」の学術的言及無し

- ・地域金融機関が域内外における多数のつながりを有する（山本（2016））
- ・「つながり」から地域の情報を集め解釈する力がある（村西他（2010））
- ・「つながり」は地縁や地域密着型金融に基づくとし唆

- 「つながり」について

- ・人や組織をつなぐもの＝紐帯（境（2003）、平松他（2010））
- ・紐帯は強弱があり、弱いほうがより多様な情報をより広範囲からより多く収集可能（渡辺（2007））

(2) 分析視点と対象

- ・分析視点…ネットワーク理論における弱い紐帯の概念を用いる
- ・分析対象…信用金庫（数量、預金量、理念）

3. 事例研究

(1) 地域の特定：東京都

- ・信用金庫数が全国最多→信用金庫間の競争が激しく、豊富な事例が存在
- ・人口が23区へ集中、多摩地域は減少率が高い
- ・中小企業減少率が全国平均とほぼ同率

地方創生で指摘される
「地方の課題」と同様

(2) 信用金庫の比較検討

- ・多摩信用金庫…弱い紐帯をより広く、組織的に形成／地域の捉え方

(3) 事例の考察：弱い紐帯形成に重要な2点

- ・潜在的なノードにいかに接触するか
- ・ノードとの接触回数をいかに増やすか

コストがかかる
短期的利益につながりにくい
業績評価につながりにくい

(4) 事例の深堀：多摩信用金庫

- 人材育成

- ・「たましん塾」という教育機会→情報の共有と蓄積、活用

- 誘因と評価方法

- ・誘因…弱い紐帯は短期的な利益につながりにくい→金銭的誘因ではない
- ・多摩信用金庫の評価方法
 - ①上長が地域の中で職員と共通の弱い紐帯を形成し、職員の評判を集める
 - ②職員の地域での評判が組織における評価の材料
 - ③職員は上長から評価され、裁量権が増える

4. 結論：たましんモデルの提示

- ・たましんモデルのプロセス
 - ①職員に共通の意識や価値観を醸成し、多種多様な部署に配属
 - ②上長から繰り返し示されることで組織としての価値を醸成し共通化
 - ③職員が共通の価値観を基に地域課題解決に励み、弱い紐帯を形成する
 - ④評価者である上長も地域の中で弱い紐帯を形成し、職員の評判を集める
 - ⑤上長は④の情報を踏まえて職員を評価
- ・たましんモデルにおける誘因…地域と組織からの二重の評価、裁量権の拡大

瑞で繋ぐ多摩のまちづくり ～MIZU×TAMAプロジェクト～

東京経済大学 経営学部山本聡ゼミナール
MIZU×TAMA班

1. 問題意識：多摩地域の人口減少

(1) 前年度の活動

- ・伝統産業の活用し交流人口の増加を図る
日本酒を軸としたツアーの考案・実施

(2) 前年度の課題

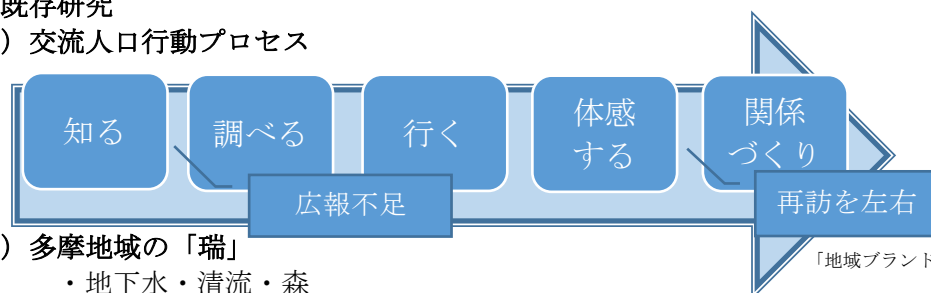
- ・軸が日本酒では地域全体をまきこめない
→昨年度の活動をどのように発展させ、どのように地域のファンを増やすか（企画・実践）

(3) 今年度の活動方針

- ・MIZU沁み渡るTAMAらない旅
「瑞」をコンセプトに、多摩地域内ツアーを企画・実施
※パイロットスタディとして東村山市を選択

2. 既存研究

(1) 交流人口行動プロセス



(2) 多摩地域の「瑞」

- ・地下水・清流・森
→清らかな水を資源とした生産物や自然風景が存在

「地域ブランドマネジメント」 電通 abicproject 編 (2009.6.20)

3. 人と地域の関係性に関する指標

(1) 交流人口と定住人口

- ・定住人口を上げる事は学生の力では不可能
- ・交流人口を増やし、コアなファンを作る事で定住のきっかけづくりが出来るのではないかな

(2) 人が定住に至るまで

- ・定住とは、人と地域との結婚（マッチング）であり、人の結婚と同じプロセスではないかな

名前は知っている	}	知人
地域の良さと特徴を知る	}	友人
更に知りたいと感じる	}	恋愛対象
リピーターになる	}	恋人
自分に身近になる・相性の良さを感じる	}	
人に紹介したくなる・連れてきたくなる	}	
諸々検討し、定住	}	伴侶

4. MIZU×TAMAプロジェクト

(1) 実施内容

- ・過去三回実施
- ・体感要素、関係づくりを重視
- ・瑞を間接的、直接的に感じてもらう



(2) アンケート結果

- ・東村山（多摩地域）に対して水の印象が強まる
- ・歴史への興味を持たせることが出来る
- ・再訪したくなる人の割合が高い

(3) 今後の課題

- ・広域地域連携
- ・人を呼込む事が難しい
- ・23区から多摩地域に人を呼込む為に

(4) 波及効果・継続性

- ・テーマを『瑞』にする
- 地域内の様々な資源を瑞で繋げてまちをプロモーション出来る
- ・行政や地元企業以外（よそ者・若者・女性）が関わる
- 地域にねざし新しい発想で地域課題に取り組むことが出来る

多摩ニュータウン再生に向けた新たな活性化策の研究

インターゼミ多摩学班

1. 多摩学とは

「多摩学」とは、多摩の来歴を探り、多摩の現代について考え、多摩という視点から未来を構想する学問です。多摩川と相模川に挟まれた地域を広義の「多摩」として、その地歴を探り、この地域の持つ意味と可能性を多角的・学際的に探求していく。多摩大学では、講義科目として「多摩学」を展開しているほか、社会人、大学院生、両学部生が参加するインターゼミ（「社会工学会」）でも多摩学研究を推進している。

2. インターゼミ「多摩学」研究の歩み

2009 年度：多摩ニュータウンの再生

2010 年度：多摩川、民話、市民農園、千人同心、絹織物

2011 年度：中里介山・白洲次郎にみる新中間層の成り上がりと多摩地域の関係

2012 年度：浦賀を中心に見た江戸幕府の対外貿易と海防

2013 年度：三多摩壮士はなぜ生まれたのか～自由民権運動にみる多摩の DNA～

2014 年度：2040 年多摩の展望～50 年に一度の交通革命をこえて～

2015 年度：多摩ニュータウン 2.0

～ニュータウン再生に向けた多摩版 CCRC の可能性と提案～

2016 年度：多摩ニュータウン再生に向けた新たな活性化策の研究

3. 問題意識と背景

多摩大学が立地する多摩ニュータウン(面積約 2,884 ヘクタール)は、八王子市、町田市、多摩市、稲城市の 4 市で構成される日本最大のニュータウンであるが、開発から 40 年余り経ち、建築物の老朽化、住民の高齢化という深刻な問題を抱えている。こうした中、多摩ニュータウンの再生に向けた、学生とシニアの連携による「超高齢社会モデル都市」を描く。

4. 研究方法

文献研究、統計分析、リレー講座受講者へのアンケート・ヒアリング

フィールドワーク

6/7 エニタイムズ「困りごとマッチングサービス」、7/7 多摩大学・シニアへのインタビュー、

10/16 多摩市「農業体験」、10/21 ヤマト運輸「ネコサポステーション（永山）」

10/28 たまプラ・コネクト「学びあい」システム

10/29 リブ&リブ「世代間交流ホームシェア」

5. 理論的枠組と先行研究

(1) 「緩やかな」紐帯（ネットワーク）の効用（Granovetter,1973）

強い紐帯よりも、「緩やかな紐帯」が重要であると指摘。「緩やかな紐帯」がそのネットワークの中において各主体者への「橋渡し」の機能を発揮することで、ネットワーク参加主体に大きな効果を与える。

(2) ソーシャルキャピタル、ネットワーク理論

以前のニュータウンにおいては、住民は、「都心の勤務先」と「家族」という強い紐帯を中心としたソーシャル・キャピタルによって効率性・安定性・生きがいが確保されていた。しかし、定年、単身化による強い紐帯の崩壊がみられる。

今後のニュータウンは、「都心の会社」と「家族」に代わる、「地域のネットワーク（学生と高齢者とのつながり）」や「地域間のネットワーク（圏央道・リニア活用）」という弱い紐帯を中心としたソーシャル・キャピタルによって効率性・安定性・生きがいを確保できるのではないかと考える。

(3) 「限界費用ゼロ社会」に基づく「プロシューマ（生産消費者）」の台頭（Rifkin,2014）

資本主義経済は本質的に矛盾を抱えており、そのせいで衰退に向かっていることを指摘。その最終段階で現れるのが「限界費用ゼロ社会」である。限界費用とは、モノやサービスの一つ（1ユニット）追加するのにかかるコストである。

情報革命（インターネットの登場）に加え、分散電源（新たなエネルギー源）、3Dプリンター、IoT、シェアリングエコノミーにより、消費者から「プロシューマー」（生産消費者）へのシフトが進むことで、資本による環境の囲い込みは緩和される。こうした社会を統治するモデルとして協働型コモンズがあり、資本主義からのパラダイムシフトが起こる。この結果、限界費用はほぼゼロに近づく。

以前のニュータウンは、生産の場所は都心、ニュータウンは生活の場所。適切なサービスを提供することで、豊かな生活を確保していた。しかし、人口減少、超高齢社会、都心回帰により、高次の欲求としての社会参画が重要となっている。

今後のニュータウンは、生産と消費の場所として機能しなければならない。高齢者が適切なサービスを生産する（＝高齢者プロシューマを生み出す）ことで、高齢者の豊かな生活を確保できると考える。

6. 具体的提案

- (1) コミュニティ構築のためのランチシェア
- (2) 単身・二人世帯を解消するホームシェア
- (3) 自分史によるシーズ掘り起こし
- (4) 交通革命を活かした農業体験
- (5) 学生と高齢者の「学びあい」システム

日の出産業振興プロジェクト

奥山ゼミ（地域産業・中小企業研究室）

1. 日の出町の概要

東京都西多摩郡日の出町は、青梅市とあきる野市の間にある人口 16,961 人、7,261 世帯の町である。

現在、日の出町が抱えている問題の一つとして高齢化問題が挙げられる。東京市町村自治調査会の調べでは 2005 年は 20% の高齢化率が、2025 年には 35% になると予測されています。人口もすでに減少し始めている。このままでは、高齢化問題、人口減少問題が進むことで、町の活力が失われるのではないかと心配される。



2. 本プロジェクトの目的

上記課題解決に向けて、観光振興を起点として、日の出町を知ってもらい、気に入ったら「常連客」に、もっと気に入ったら「セカンドハウス」を、将来的には「定住」をしてもらうことがプロジェクトの目的である。

しかし、すでに観光地として名高い周辺地域の状況はイメージコンセプトがしっかりとしている。一方、日の出町はそれが確立していないため他との差別化ができず地域資源が埋もれてしまっているのが現状である。

日の出町にも強みはある。日の出町では東京 23 区から近く、かつ手付かずの

自然と文化が溶け合った観光資源が多数存在するのである。こうした強みを活かし、他地域と差別化した観光振興を行うために発足したのが本プロジェクトである。

3. 本プロジェクトの立ち上げと活動

2013年9月、日の出町の地域の方、商工会、観光ガイドの会、多摩大学奥山ゼミ等により、産学官連携のプロジェクトを発足しました。

私たちは1年間以上の毎月の会議を重ねて日の出町がどういう差別化要素が考えられるか検討を重ねた。そこで、観光振興における日の出町のコンセプトを、「都心から60分という近さにあるのに、自然や文化を通じて心の充電ができる場所」とし、このコンセプトを基に、日の出町の差別化要素を検討し、新たな観光商品を造成するための取組を行うこととした。

4. 主な取組

(1) フォトロゲイニング

フォトロゲイニングとは、地図をもとに、時間内にチェックポイントを回り、より高い得点を集めるスポーツである。制限時間内に出来るだけ高得点になるように、参加者が自由にルートを決めて、チェックポイントを回ることを目指す。参加者がコース選択できる自由度の高い競技で、全部のチェックポイントを回る必要はない。チェックポイントを回った記録として、チェックポイント写真一覧と同じ写真を撮影する。最近は家族で地域と触れ合いながら、ゆっくりと楽しみながら走って、歩いて、立ち止まって楽しむ参加者も多く、地図とチェックポイント一覧を使った宝さがしのスポーツである。

「フォトロゲイニング日の出 2016」を、3月6日に開催した。来年も「フォトロゲイニング日の出 2017」を3月26日に開催することが決まっている。

(2) 情報発信

行政や観光協会と連携して、試行的イベントを含めた日の出町の様々な魅力やイベントをFacebook等で一元化して発信する。これにより、日の出町の認知度、ブランドイメージを高め、町の観光振興、観光まちづくりにつなげていく。

5. 今後の方向性

将来の方向性としては、様々なビジネスシーンに対応した観光商品を開発するとともに、観光マップの開発によって、新たな観光シーンを提案していく。例として、「ロン・ヤス会談」が行われた日の出山荘の活用やサイクリングによる周遊ルート開発などを挙げることができる。また、2020年のオリンピック時の外国客向けのエクスカッション商品の開発も視野に入れている。

株式会社ファンコミュニケーションズ様
×
多摩大学 酒井ゼミ



2016年度 多摩大アクティブ・ラーニング発表祭 (A3)

「F@Nプロジェクト」 ～スマホ広告に関する消費者行動研究 成果報告

2016年12月10日 (土)

F@Nコミュニケーションズの 紹介

F@Nコミュニケーションズとは



- 企業名 : 株式会社ファンコミュニケーションズ
- 業種 : Web広告代理店
- 経営ビジョン : 世界最大の成功報酬型アドネットワーク
企業グループを目指す
- 主な事業内容 : ①広告代理業等のインターネット広告
関連事業
②自社媒体運営

3

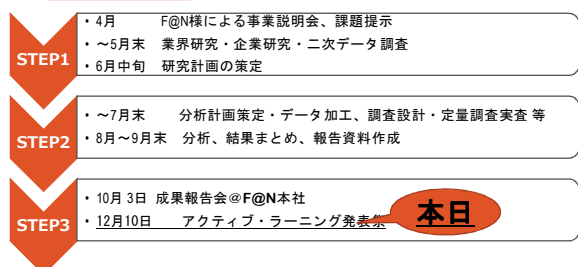
プロジェクト概要

4

本プロジェクトのスケジュール

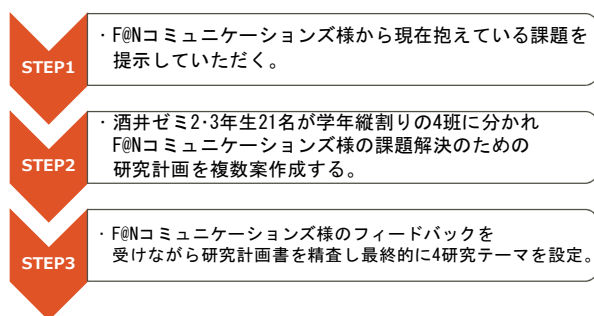
研究目的

F@N様の課題解決のための
具体的なマーケティング施策の提案



5

プロジェクトの流れ



6

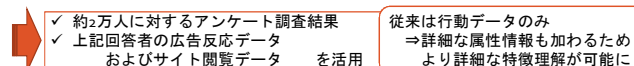
研究テーマ

7

4 班の研究テーマ

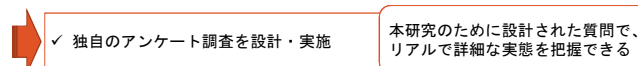
A班: 複数サイトの回遊行動に基づく消費者タイプの抽出

B班: ゲームアプリ広告反応者の特徴理解



C班: 若者のスマホアプリ利用実態と
スマホ広告に対する意識調査

D班: 若者のゲームおよびECサイトの利用実態調査



研究概要

9

研究概要：A班

テーマ『複数サイトの回遊行動に基づく消費者タイプの抽出』

F@N様の課題

個々の広告からその広告主のサイトに誘導するための分析は詳細に行っているが、一人の消費者が複数の広告・サイトをどのように見ているか、という**消費行動全体の把握は行えていない**。

研究目的

同一人物の属性データと複数サイト内の回遊データを用い、特徴の似た**消費者タイプを特定**し、消費者理解を深める。

今後の活用

特定された消費者タイプを判定する自動モデル等の開発により、**よりの確かな広告の表示**につなげることが可能に。それにより、**広告クリック率の向上**も見込める。

10

研究概要：B班

テーマ『ゲームアプリ広告反応者の特徴理解』

F@N様の課題

ゲーム業界は主要な広告主。
ゲームの広告に反応する**消費者の詳細な特徴を知りたい**。

研究目的

同一人物のゲーム利用に関するアンケート結果と複数のゲームアプリ広告への反応状況のデータから、特徴の似た**消費者タイプを特定**し、消費者理解を深める。

今後の活用

ゲームアプリ広告を出す**対象者の選定**や、ゲーム業界の**広告主に対する情報提供**が可能。

11

研究概要：C班

テーマ『若者のスマホアプリ利用実態とスマホ広告に対する意識調査』

F@N様の課題

スマホ広告の主要ターゲットである若年層が、**どのようなスマホアプリを使っているのか**、また**スマホ広告をどのように感じているのか**の実態を知りたい。

研究目的

若者のスマホアプリ利用実態やスマホ広告に対する意識をアンケート調査により把握し、若者に**受け入れられやすいスマホ広告**の必要条件を明らかにする。

今後の活用

複数ある現行のスマホ広告の形式の中でもターゲットごとに**より受け入れられやすい形式を選択**することが可能になったり、**新しい広告形式**を検討する参考となる。

12

研究概要：D班

テーマ『若者のゲームおよびECサイトの利用実態調査』

F@N様の課題

広告主の主要業界は「ゲーム」「~~4G~~サイト」「不動産」「人材」。
それらの業界に関して、スマホ広告の主要ターゲットである**若年層の利用実態を知りたい**。

研究目的

上記4業界のうち、学生でも利用が多い「ゲーム」「~~4G~~サイト」業界に関する**利用実態**をアンケート調査により把握する。

今後の活用

若年層をターゲットとするゲームやECサイトの**広告内容の検討**や、両業界の**広告主に対する情報提供**が可能。

13

研究結果

研究結果の一例を
当日に投影にて説明いたします。

14

まとめ

F@N様からの評価

業界の常識にとらわれない学生視点での分析により、**企業視点では見えなかった新たな発見**をすることができた。

学生の学び

・普段の生活では鬱陶しいと思うことの多いネットやスマホ広告のひとつひとつにも、**価値している側の想いや苦勞が込められている**んだと、新しい価値観を発見できた。
・企業人前で成果報告をすることで、**学内では得られない緊張感**を味わうことができた。この経験を今後に活かしていきたい。

15

ご清聴ありがとうございました

16

IDカードによる適応型入退室管理システム

21311232 永野 文弥

1. はじめに

出原ゼミ研究室では、ナンバー錠を用いた施錠システムで鍵の開閉を行っていた。このナンバー錠を用いた施錠システムでは、ナンバーを知っていれば誰でも部屋に出入りすることができるため、ゼミ生が自由に部屋を出入りすることができた。

しかし、研究室の移転に伴って、研究室の施錠システムがナンバー錠を用いた施錠システムからシンプルなロックキーによる施錠になった。これによって、鍵を持っていないゼミ生は自由に研究室を出入りできなくなってしまった。

そこで、ゼミ生が自由に研究室を出入りすることができるセキュリティシステムを開発し、導入する。

本研究では、多摩大学の学生が持つ学生証の情報を非接触通信で読み取り、解錠する。

2. 既存類似システム

類似システムとして、インテリジェント電気錠「iEL」がある[1]。この電気錠では、非接触 ID カードをかざすことにより解錠を行っている。また、解錠から 20 秒の経過時間に応じて自動的に施錠が行われる。

「iEL」のシステムでは、ユーザの行動を把握できないため、ユーザに適応したシステムが提供できない。本システムでは、過去のユーザの入退室履歴から、同じ行動パターンを持つグループに分類を行い、そのグループに適応した施解錠システムを提供する。例えば、滞在時間が短いユーザのグル

ープに対しては、解錠タイミングを遅らせるなどが考えられる。

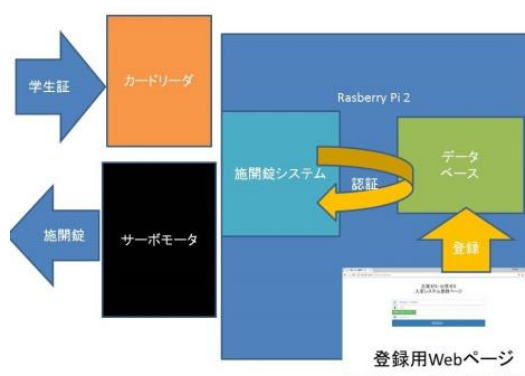
3. システム構成

本システムの構成を以下に示す。



(図 1: ハードウェア)

施解錠システムを動かすために、Raspberry Pi (ラズベリーパイ、以下ラズパイ) という小型コンピュータを用いる[図 1]。また、学生証と非接触通信を行うためにカードリーダーをラズパイに取り付ける。研究室の施解錠には、サーボモータを用いる。



(図 2: ソフトウェア)

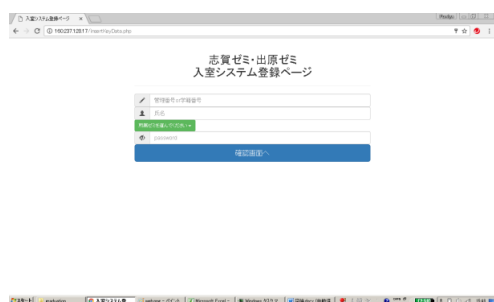
現在、ラズパイ上では二つのシステムが動作している[図 2]。

1 つ目は、施解錠システムである。施解錠システムは学生証に保存されている学籍番号を、カードリーダー経由で読み取り、データベースに格納しているゼミ生の学籍番号を用いて認証を行い、一致していたらサーバモータによる施解錠を行う。

また、解錠後は施錠忘れ防止のため 20 秒待機した後に自動で施錠を行い、セキュリティの強化を行っている。

2 つ目は、登録用 Web システムである[図 3]。

登録用 Web システムでは、Web のフォームを経由してラズパイ内の学籍番号保管用のデータベースにアクセスし、学籍番号を登録する。



(図 3:Web 登録フォーム)

4. アプリケーション概要

本システムは、ゼミ生がカードリーダーにかざした学生証の学籍番号を読み取り、ラズパイ内のデータベースを用いて認証を行い、研究室の鍵の施解錠を行う。また、部屋を管理する管理者は Web の登録ページに学籍番号と名前を入力することで、ラズパイ上のデータベースに追加される[図 4]。

学籍番号	名前	所属ゼミ	パスワード
------	----	------	-------

(図 4:学籍番号データベース)

5. 発展

今後の発展として、ユーザごとに異なるサービスを提案しようとしている。ユーザや入室時刻などから、入室してからすぐ退室するなど、滞在時間が異なることが想定される。データベースのログを統計的に分析することで、このような特徴に適応したサービスを提供できる。例えば、現在は解錠してから 20 秒で自動的にドアが施錠する仕組みになっているが、入室後すぐに退室するユーザに対しては施錠タイミングをずらして何度も解錠しなくていいようなシステム改良を検討している。

また、現在は教員証、学生証を持つ者しか研究室の出入りができないため、学生証以外でも施解錠できる仕組みを検討している。こちらについては、Web 経由による施解錠かスマホの非接触通信を用いた施錠を検討している。

参考文献

[1] 美和ロック株式会社「インテリジェンス電気錠「iEL」

<<http://www.miwa-lock.co.jp/tec/products/iel/>>(2016/12/01 アクセス)

小豆島産業振興プロジェクト

奥山ゼミ（地域産業・中小企業研究室）





サプライズ

結婚披露宴

リゾートへの招待

新嫁様のプレゼント（二年量）等



持続的サプライズ





プレゼント・テーマ



木

オリーブの木は硬く、重く、耐久性がある。
→スプーンや皿、まな板などに加工されることが多く、長く使える。



花

オリーブの花言葉は「平和」。
夫婦の木とも呼ばれるオリーブの木。
ブーケなども作られている。



平成 28 年度 多摩大学経営情報学部アクティブラーニング祭発表資料

発番号 A-6 世代間交流八王子駅前サロンプロジェクト

(平成 28 年度大学コンソーシアム八王子学生企画補助金対象事業)

多摩大学経営情報学部梅澤佳子ホームゼミナール

◎ 一 拓哉 (3 年)、伊藤竜也、清水健太、前田将太郎、安池輝、吉江峻平 (2 年)

1. プロジェクトの目的

本プロジェクトは、八王子駅前にある八王子市地域包括支援センター旭町と大学生が連携して「駅前という特徴を活かした高齢者のためのサロン」を立ち上げ運営を試みるものである。駅前商業地域で独居する高齢者は多く、近年は駅周辺再開発により高層マンションが新築されご高齢の新入居者も増えている。本事業はこのような現状を踏まえた上で、公的な交流の場の仕組みづくりを行っていくことが目的である。

目標の第一は、高齢者の方々が自然体でゆったりと過ごすことができ、多世代で交流し合える「みんなのゆったりサロン」である。第二は、高齢者の活動の活性化を推進していくことで、健康長寿の一助となることを考えている。地域団体と連携して継続性のある事業を目指し、駅前ならではの新たな仕組みづくりを行うことも目標の一つである。

2. 活動の経緯

本プロジェクトは、今年度からの新規プロジェクトである。本ゼミはこれまで多摩市を中心に継続的な地域PJを行ってきたが、今春、八王子市役所職員から八王子市にもゼミの地域活動を広げてみないかとお声をかけていただき、お取次ぎにより八王子市地域包括支援センター旭町との活動がスタートした。

3. 活動内容

活動は、八王子市第4地区民生委員の方々と梅澤ゼミPJメンバーで役割を分担して行っている。

(1) 駅前サロンの運営方法

開催場所はJR八王子駅前徒歩5分の雑居ビル3階にある八王子市地域包括支援センター旭町の一室を利用。開催日時は毎月第3木曜日午後2時から3時半の90分である。4月からの準備期間を経て6月からサロンを開始し、11月までに計5回(8月は休み)のサロンを実施した。

民生委員の皆さんは、担当地区の高齢者にサロン参加の呼びかけや当日の茶菓の準備・提供、おもてなし、交流等々を担当して下さっている。

(2) 梅澤ゼミの役割・活動内容

学生の役割は主に二つに分けられる。一つはサロンの企画立案、運営、サロンを通じての世代間交流である。その他には地域高齢者の生活実態やニーズの調査とそれに基づくサロンの改善案を提案していくことである。

① 駅前サロンの運営方法

旭町職員、民生委員の皆さんと相談しながら、我々は自己紹介や開催時期にあった話題を選びクイズなどをPPTで作成し話題づくりを行う。

自己紹介では学生自身の趣味や旅行先の紹介、1964年に開催された東京オリンピックと2020年に開催されるオリンピックとの比較や八王子市の特徴など、高齢者にとって懐かしい話題、我々と共通の話題を用意し楽しんでいただくよう工夫を行った。

第3回からは、次回の集客に向けたチラシを配布した。チラシには次回のサロン内容だ

けでなく、高齢者の方々が少しでも外に出ていただけるきっかけ作りとして、近々行われる八王子駅周辺の行事を紹介するなど工夫した。本サロンを実施しながら計7回の関係者会議を行った。

② フィールドワーク、その他の活動

【参考事例の視察調査活動】

サロン運営にあたって、参考事例として八王子市シルバーふらっと館ヶ岡の視察を行った。館長の方のお話からサロンの在り方、人を想う気持ちなど多くのことを学んだ。館長の人の温かさからや人望の厚さを間近で見ることで、改めて人を笑顔にすることの素晴らしさを感じることができた。

【民生委員の方々へのインタビュー】

我々と一緒に活動をして下さっている民生委員の方々へのインタビューを行った。町にはそれぞれ特徴があり、民生委員の方々は地域の特徴に応じて異なる活動を行っており、工夫をされていることが分かった。駅前サロンを運営するにあたり、八王子の地域別の特徴を理解することはとても重要だと感じている。

4. 成果と課題

(1) 駅前サロン

6月16日に開催した第1回駅前サロンは民生委員の方々のお声かけもあり、約30名もの高齢者の方々が参加された。「若い人と話すのは楽しい。」「今度はお友達も連れてきていい？」など励みになるお言葉をいただくことができた。

(2) 学生企画補助金採択

大学コンソーシアム八王子「学生企画補助金」の対象事業として採択をいただくことができた。2回のプレゼンテーションと中間報告会を通じて、担当の方々から多くのアドバ

イスをいただいた。そのことでより深い活動を行うことができている。

(3) 課題

運営する上で幾つかの課題がみえてきた。第一に隣あう参加者同士で話が盛り上がってしまうことだ。出来るだけ参加者全員で楽しめる話題を提供していきたいと感じている。第二に普段接点がない高齢者の方々と話す時に、我々がどうしても身構えてしまうということである。第三に自分の趣味などの話題を提供しても理解されないことが多く、ジェネレーションギャップを埋めることが難しかった。第四に高齢者の方々のお話を聞く時に聞き手に回ってしまい、自分自身の話をすることができなかった。

今回の課題は、我々のコミュニケーション能力に関するものである。

4. 外部評価

八王子市地域包括支援センターの皆様さまより私たちの活動に対する評価を頂戴した。内容は以下の通りである。

「年齢が違う学生たちとの交流で、高齢者の方々も楽しそうに話されていたのでとても良かった。八王子市内に住んでいる学生がいなかったことで、それぞれの地域の話題に広がりを持った点がよかった。回を重ねる毎に駅前サロンが良いものとなってきている。開会時の盛り上がりが少し欠けるので、工夫するとより良いものになると思う。」

5. 謝辞

今年度、ご指導いただきお世話になりました八王子市地域包括支援センター旭町職員の皆様、八王子市民生委員の皆様、八王子市福祉部高齢者福祉課地域包括担当職員の皆様、大学コンソーシアム八王子様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

志プロジェクト ～志企業の会社案内作成プロジェクト

ホームゼミ合同

(志賀ゼミ、梅澤ゼミ、酒井ゼミ、石川ゼミ、
金ゼミ、奥山ゼミ)

1. はじめに

多摩大学、多摩地域の優良企業紹介ポータルサイトを運営する株式会社弘久社では、多摩信用金庫の協力のもと、地域の企業・団体（以下、「企業」という。）と学生との相互交流を図り、人材育成と地域活性化に資することを目的として、多摩地域の優良企業を対象として、学生の手で会社案内を作成する標記のプロジェクトを実施している。

本プロジェクトは、学生が企業に訪問し経営者などに対してインタビューを実施し、主に学生向けの会社案内を作成するものであり、2013年度から開始し、今年度が4年目となる。

以下、その具体的内容を記す。

2. 本プロジェクトのプロセス

本プロジェクトは、学生自身が企業にアポイントを取ることから始まる。学生は数人がひとつのグループとなり、決められた日時に企業に訪問し、経営者および若手社員等にインタビューすることなどにより、会社案内のコンテンツを収集する。その後、収集したコンテンツをもとに学生目線で作成した会社案内（8ページ）を作成する。

3. インタビュー内容

1-1 経営者へのインタビュー

(1) 会社概要

- | | | |
|-------|-------|------|
| ①会社名 | ④資本金 | ⑦事業所 |
| ②創立 | ⑤売上高 | |
| ③事業内容 | ⑥従業員数 | |

(2) 経営者の志、社長の経営に対する考え方

(3) 業界の現状と今後の見通し

(4) 現在の企業内容

- | | |
|-----------------|-----------|
| ①企業の強み | ③新人教育について |
| ②目指すもの（ビジョン・使命） | ④顧客について |

(5) 事業内容、事業形態（業態）の変遷

- | | |
|-------------|--------------|
| ①連携関係 | ④助成金等公的資金の活用 |
| ②新規技術開発について | ⑤その他 |
| ③海外展開について | |

(6) 就職活動している学生に一言（求める人材像、学生へのメッセージ）

1-2 先輩（若手社員）へのインタビュー

- (1) プロフィール
 - ①入社何年目か
 - ②どのような仕事をしているか
- (2) 入社したきっかけ、経緯
- (3) 職場の魅力
- (4) 今後どのように成長していきたいか
- (5) 学生へのメッセージ

4. 作成した会社案内の公表

インタビューで取材した内容は、御社の会社案内として編集し、多摩大学のHP や弘久社運営のサイトである「TAMA エクセレントカンパニー（多摩志企業）<http://tama-exc.com/>」などで公表する。

5. 2016 年度参加企業・団体

2016 年度は、15 の企業・団体にご協力いただいた。

<2016 年度参加企業（順不同）>

特定非営利活動法人多摩草むらの会

株式会社キャリア・マム

有限会社アンリミット・ジャパン

アップグレード株式会社

ナカゲンエージェンシー株式会社

株式会社日本電力サービス

特定非営利活動法人まくら木

株式会社アビネット

株式会社エムール

株式会社昭立造園

株式会社富士機工

株式会社 NBC メッシュテック

株式会社 MNH

株式会社藤波タオールサービス

株式会社ウィズチャイルド

6. 学生としてのメリット・効果

参加学生は、6 つのホームゼミに所属する 2～4 年生の 57 名となっている。学生にとっては、このプロジェクトへの参加を通じて、主に次の 3 点のメリット・効果が大きいプロジェクトとなった。また、企業と学生とのマッチングにも効果がみられる。

- (1) 社会人基礎力を身につける。
- (2) 生きた経営学を学ぶ。
- (3) 多摩地域に所在する企業・団体を知る。

福住プロジェクト ―地域との連携―

帝塚山大学文学部日本文化学科
民俗学ゼミ 福住プロジェクト

1. 奈良県天理市・天理市福住町との連携の経緯

「福住のくらしーひいおじちゃんのスケッチブッカー」展示会共催

2016年2月6日（土）～3月6日（日）於：天理市文化センター

約1800人の入場者

2. 「福住の民俗―中定故永井清繁氏の画帳より―」展示会共催

2016年11月6日（日）～11月13日（日） 於：福住公民館

約480人の入場者

（1）福住の民俗文化聞き取り調査（2016年10月23日）と報告書作成

<人生儀礼>

結婚式 一昔前の結婚平均年齢は、男女ともに二十～二十五歳で基本的には男性側が年上であった。結婚式は農作業がなくなっている時期の大安吉日を選んで行われた。夕方に婿の家で行われ、仲人が嫁を迎えにきた。仲人は、婿と嫁両家の内をよく知っている人が務めた。嫁は二度と帰ってこないようにという意味を込め、縁側から実家を出た。庭で送り火として藁を一束燃やした。迎えにきた仲人に連れられ、婿家にやってきた嫁はまず家の前で足洗いをする。婿側の親戚の女の子がたらいの横で、嫁の足を片足ずつ足袋のまま洗うふりをする。これが終わると玄関から入り、座敷で結婚式が始まる。一切の進行を仲人夫婦が行う。挨拶の後三々九度が行われる。儀式には大中小三つの大きさの盃を一組にした三ツ組盃が用いられる。雄蝶と雌蝶と呼ぶ子供が盃に酒を注ぎ、一つの酒を酌み交わす。そして伊勢音頭や芸をし、宴をした。この時の食事は職人が家で作る。オリバコと呼ばれる檜でできた三段の重箱に、鯛や赤飯、羊羹などのめでたいものを入れる。床の間には鶴と亀を飾り、生け花は松がよいとされていた。

赤ちゃん誕生 嫁の実家へ出産の数か月前に帰ってナンドで生む。産気づいたら身内の者が産婆さんと呼ばれに行く。産婆さんは村に一人いた。生まれたらすぐに赤ちゃんを産湯で洗う。蒟蒻たわし（海藻で作っており、水につけたらふにゃふにゃになるもの）で赤ちゃんを洗う。赤ちゃんが生まれる前から作っておいた赤い服を着せる。おしめは昔の浴衣の切れ端で作る。服を着せたらお母さんの横に寝かせる。へその緒は和紙で包んで桐の箱に入れてとっておき、エナ（胎盤）は主人やおじいさんが共同の埋め墓に埋めに行った。産後、産婦は里芋のアカズイキを干したものと餅を食べると血の巡りがよくなるといわれている。一か月実家で過ごしてから自宅へ帰る。自宅へ帰るとすぐ男の子は大、女の子は小と額に書き、お宮参りに行く。

満一歳誕生祝 一歳の誕生祝をタンジュ（誕寿）という。コシキという蒸し器で米を蒸し、から臼で餅をつく。あずき餅ときなこ餅を合わせて一升餅といい、一つにして背負わせる。箕に座らせて職業占いをする。鎌・金槌・そろばん・書物、矢立、はさみを置き、選らばせる。鎌を選べば農業、金槌は大工、そろばんは商人、書物、矢立は学者、はさみは裁縫上手などといわれている。

（調査者 栗林杏介 永田伸弥 弓場伸浩 渡辺真衣）

<農耕>

春 稲のことを「稲さん」という。春には春田耕しが行われる。堅い土を砕き細かくする作業のことで、田コナゲとも呼ばれた。コナゲは土を細かく砕く作業そのものを意味した方言である。昭和三十年頃まで鋤、備中鋤、マンガカキ（馬

用の鍬)で砕いていたが、それ以降は機械化が進みトラクターでするようになった。土を砕くと同時に肥料を撒いて土と混ぜる。この肥料のことをヒスシという。牛や人の排泄物を発酵させたもので、冬田耕しで余った糞などを混ぜていた。田んぼの横にはゲンゲボ畑と呼ばれるレンゲの花があり、球根が肥料になるので育てていた。稲が立っているうちに種をまいて、春田耕しの時に、球根だけ刈り取り土にまいた。また初蒔の際には午の日、酉の日に初蒔をしてはいけないとされる。午の日は、馬が走った様に歯抜けに生えてきてしまうから、酉の日は、稲を鳥がつついてしまうからだといわれる。初蒔きが終わると、使用した機械・道具にサナブリ餅を供える。田植え前にはサブラギという行事が行われる。水口に萱を十二本植えて苗の成長祈願をする。閏年の際は十三本植える。これ以外に、水口に御幣に露俵(豆、ジャコなどが入った小さな俵)を供えて豊作を祈願する。

夏 夏には春田耕しで土を細かく砕いた田んぼに水を引き、クマデや丸太を使って田を平坦にするシロカキを行う。その後、田植えが始まる。大人の一跨ぎの間に三列ずつになるように後ろに下がりながら植えていき、より正確に植えるために田植え縄が用いられた。この田植えの作業は早乙女と呼ばれる女性たちが、出稼ぎで近隣の田植えを手伝った。田植えから二十日ほどたつと草取りをし、これには除草機を使った。雨の日には蓑・笠や田ごさなどの雨具で雨風を防いだ。これらの雨具は藁製で、雨を吸い込んで非常に重かった。しかし後に、ビニールを上に乗せるように改良された。除草は三回ほど行われるが、その間に苗厄や休み苗、虫送りといった行事がある。苗厄は初蒔き後の四九日目のことで、この日は田に入ってはいけないとされる。苗が伸び始めて穂をつけ始める頃で、踏んだり傷つけたりしないためであると思われる。また休み苗というものがあり、七月一日に補植用に田の隅に置いてあった苗を捨てることをいう。休み苗の「休み」は「安らかに眠れ」という意味があるとされている。虫送りは七月半ばに男性のみで行われた。夕方から夜にかけて、各家が松明を持ちよって鉦や太鼓を鳴らしながら、村中の田を回る。火の灯りによって虫を集めて、村の外で大トンドをして害虫を焼くという意味がある。この時期には雨乞いも行われており、氷室神社や竜王神社に酒を奉納して拝んだ。

(調査者 狩野拓海 若林大聖)

<年中行事>

正月 元旦に井戸から桶に水を汲み、玄関に置く。その水で家族が恵方を向いて顔を洗う。これを初水という。水を汲むのは昔から家長(父親)で、その日だけは男性が早起きする。雑煮も男性が作り、女性は休む日となっている。その後、三宝に鏡餅と干柿を載せたイタダキを頭上にかけて拝む。雑煮は味噌仕立てで焼いた餅を入れる。雑煮の餅は別の皿に用意した青大豆のきなこをつけて食べる。おせちは黒豆・たたき牛蒡・田作りの三種を必ず用意する。正月二日か三日に、伊勢から獅子舞が来て各戸を回る。獅子舞にかまれたら、賢くなるとかクサ(湿疹・かぶれ)ができないといわれている。

トンド 一月四日に、村の一か所でトンドをする。正月の注連縄や門松を持ち寄って燃やす。新仏をお迎える家は村のトンドに参加せず、別に燃やす。

月見 九月の名月には里芋を供える。十月の名月には栗と大豆を供える。子供たちが夕方、各家の供物を盗る。このことを「子供にたばらす」という。「たばる」とは神仏に供えたものを「給わる」ことに由来する。

(調査者 外西美紗希 水本綾音)

(2) 展示準備 2016年11月5日(土)

(3) 展示解説 2016年11月6日(日)

(4) NHKの取材協力 2016年11月10日(木)放送(奈良)

11月15日(火)放送(近畿)

「奈良県の不登校の子どもたちを支援するプロジェクト」報告

発表者
帝塚山大学大学院心理科学研究科2年生 岡崎祐美
帝塚山大学心理学部2年生 亀田凌雅
担当教員：中地展生

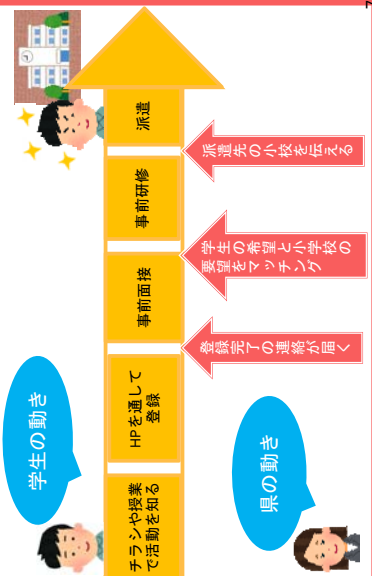
教室での不登校予防

- ①話し相手
- ②学習支援
- ③別室登校支援
- ④教室入り込み支援
- ⑤適応指導教室
- ⑥教員との連携

寄り添う支援

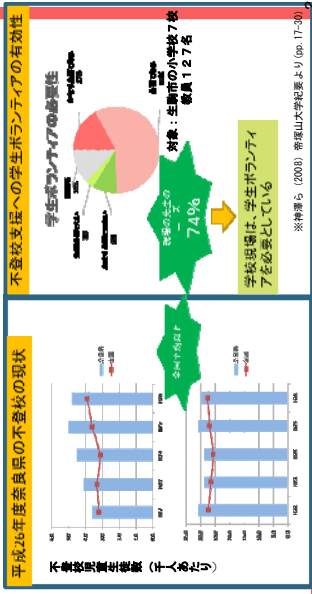
年が近い、話しやすいお兄さん、お姉さんに相談しようかな。教えてもらおうかな。

派遣までの流れ



プロジェクトの背景

(平成27年度県内大学生が創る奈良の未来事業優秀賞受賞)



寄り添う支援の期待される効果

- ①孤立している子どもを減らすことができる
- ②勉強についていけなくなつて、学校嫌いになることを予防できる
- ③子どもがクラスに戻りやすくなる
- ④小グループでの活動を支援する→学校復帰をお手伝いできる
- ⑤教員の負担を減らし、目立たない子への配慮ができる
- ⑥気になる子を見つけて先生に伝えられる・ボランティアには話していることを先生と共有

- ＜寄り添う支援で重視すること＞
- ①学生ボランティアとその子だけの時間をもつこと
 - ②見守る姿勢
 - ③先生でも反復でもない、独自の立ち位置を活かして関わる

プロジェクトの目的

- ①大学生ボランティアの力を使って、不登校の数を減らしたい！
- ②大学生ボランティアの活動を支援する体制を地域に創りたい！

ボランティアの支援体制

- 事前研修会・継続研修会の実施
- マッチングコーディネーター、スーパーバイザーの配置
- ニュースレターの作成

支援体制

- マッチング・コーディネーターの設置
- 2人のスーパーバイザー(臨床心理士)の配置
- 事前研修会・継続研修会の開催
- ニュースレターの作成など



マッチング・コーディネーターの設置



マッチング・コーディネーターの通井さん

ボランティア登録学生と、ボランティアを要請している学校とをマッチングするお仕事。
学生が自宅や学校から通いやすい範囲の小学校に通えるように努めてくださっています。

★やりがい
・登録者が途切れないこと
・行きにくいところに地元の子が通える

★むずかしい
・学生と学校側の曜日が合わない
・学生の通学範囲内に小学校がない

HPの登録画面



学生へのサポート

事前研修(5月)

学校現場で必要なマナー、個人情報保護、意識、コミュニケーション力などを身につける。参加学生40名



経験豊富な
講師による
研修会



継続研修(月1~2回)
学校現場での実際の事例ケースを基にしたケースカンファレンスを実施。参加学生25名

その他にも・・・
グループスーパージョン、アンケートの実施、困りごとへの対応。月に1回、活動記録を学校に提出することでの教員との情報共有など



サポートが手厚いから安心！
仲間がいるから心強い！

活動実績

登録者人数
男性 13名
女性 22名
計 35名

活動人数
男性 7名
女性 6名
計 13名

参加大学 ※()は人数
帝塚山大学(25)立命館大学(2)
関西女子短期大学(2)畿央大学(2)
京都大学(1)京都ノートルダム女子大学(1)京都大学(1)
京都女子大学(1)

派遣先の小学校 ※()は学校数
奈良市(7)桂原市(4)生駒市(3)
大和郡山形市(2)桜井市(2)香芝(2)
三郷町(1)斑鳩町(1)大淀町(1)



地域拡大中！

ボランティア参加学生の卒業研究

帝塚山大学心理学部4年生が「大学生の学校支援ボランティアに関する調査」を行いました。

調査の方法

- 学校支援ボランティアを行っている学生(以下：参加者)20名と、行っていない学生(以下：非参加者)101名に対する調査を実施
- ①～④の質問項目群ごとに、参加者、非参加者で数値を比較

①ボランティア活動への思い

- ・子どもが楽しめるよう援助する
- ・自分の問題として活動する
...など、全15項目

③対人恐怖

- ・集団の中に溶け込めない
- ・人前に行くことがオドオドしてしまう
...など、全10項目

②ボランティア活動への動機

- ・自己を再発見し、成長させることができる
- ・人や社会の役に立てる
...など、全9項目

④自尊感情

- ・自分に対して肯定的である
- ・物事を人前にはうまぐやれる
...など、全10項目

今後の課題と展望

課題

- 地域のかたより
- 学生の確保

展望

- 来年度以降、中学校にも事業拡大
- 学生ネットワークの更なる拡大



亀田くんの場合

- 2年生の亀田凌雅くん
- 現在、小学校で週2回、学校支援ボランティアとして活動中
- ボランティア活動を通して、今年度よりボランティアサークルを設立。部長としてボランティア活動だけでなく、広報活動も行い、日々ボランティア事業の拡大に努めている。



学生の声

- 「やりがいを感じる」
- 「将来に役立つ」
- 「事前面接でやりたいことや希望地域を聞いてもらえる」
- 「サポートが手厚い」
- 「生きた学びをさせてもらっていて、ありがたい」
- 「勉強したことを実践できる」



学校の声

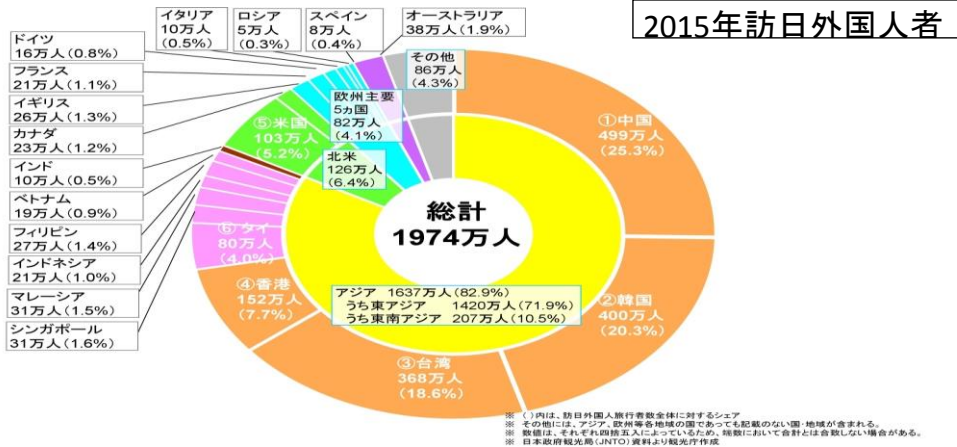
- 「学校側としてはボランティア学生はいつでもウエルカム」
- 「教師は生徒1人1人に付き添える時間が限られているので、いてもらえただけありがたい。」
- 「心理学を学んでいる学生が来てくれるとありがたい」
- 「子どもの発達について勉強してくれる学生に来てもらえて助かっている。」



日本政府が掲げている観光推進目標

- ★訪日外国人旅行者数 2020 年:4000 万人 2030 年:6000 万人
- ★訪日外国人旅行消費額 2020 年:8兆円 2030 年:15 兆円
- ★地方部(三大都市圏以外)での外国人延べ宿泊者数 2020 年:7000 万人泊 2030 年:1億 3000 万人泊
- ★外国人リピーター数 2020 年:2400 万人 2030 年:3600 万人
- ★日本人国内旅行消費額 2020 年:21 兆円 2030 年:22 兆円

インバウンド市場の現状



訪日観光者数の増加に伴い発生した問題

言語表記の国際化
宿泊施設の数
公衆無線lanの不足
クレジット決済への対応
空港のキャパシティ
各都市部へのアクセス

受け入れ

文化の違いから生じる
マナーの問題
(・食事や買い物での
対人トラブル
・宿泊施設での備品管理
不泊問題...など)

旅行者側

MEMO

オリジナルアニメ制作「白繭様奇譚」 ～多摩に精神の拠り所を～

彩藤ゼミ 2年 横山 大悟

1. 活動・研究内容の概要

多摩ニュータウンを調査し、ここに通っている学生たちが地域のことを知らないという問題に対し、若者が取り付きやすいアニメやゲームの形で地域の良さを広げていきたいと考えた。オリジナルキャラクターを創作し、これにより多摩ニュータウン、もっと絞って言うと多摩大学付近が「聖地」となるようにしたい。多摩ニュータウンには神社仏閣や祭りごとが少ないと感じたので、それらの「聖地」が地域住民の新しい精神的拠り所になるといいという願いを込めて活動した。

2. 制作アニメ詳細

『白繭様奇譚』

●ストーリー

子の刻にヤサカ神社の御神木に触れると扉が開くとされている。

白繭様に願いを叶えてもらおうと考えた中学生4人は

各々の願いを胸にヤサカ神社を訪れる。

しかし、出てきたのは白蛇…学生たちを異世界に飛ばしてしまう。

その表情は白繭様を庇うように見えた。

学生たちは果たして願いを叶えられるのだろうか。

そして、無事に元の世界に帰る事ができるのだろうか……



●舞台

八坂神社

アニメの鍵になるスポット

アニメ制作にあたり、3DCG ソフト Blender を使用した。
モデリングした一例を示す。



●作成キャラクター



白蘭様

アニメの鍵になるキャラクター



泉コウタロウ

磯崎モモカ

坪野ハルカ

横溝ダイゴ

なぜ「メディア実践論」なのか、何をめざすのか

ICTのめざましい進化とメディア環境の大きな変化 ⇒ 誰もが情報の発信者になれる時代
企画、取材から表現までを、実戦的に体験、習得する「メディア実践論」

3本の柱：①ビデオ作品をつくる ②デジタルストーリーテリングの実践③「学生ジャーナル」の取材、編集
メディアリテラシーを実践的に鍛え、時代を生きる力へ

メディア表現へ！その意味は

○現代のメディアにおける表現とは

：映像表現＋音声表現＋活字による表現

○問題意識を深め、ものの見方、考え方を鍛える

○表現と認識の関係について深める

○現在（いま）を読み解く力を獲得する

○メディアリテラシーを高める

- ・メディアを主体的に読み解く力
- ・メディアの仕組みを知り、活用する力
- ・メディアを通じてコミュニケーションを深める力



カメラを手に

街に、野に出よう

君は何を見るのか！

何を、どう学ぶ

■メディア表現のための学習プログラム：ビデオ制作ワークを例に

- ・企画を立てる（リサーチ・データの収集⇒提案⇒再リサーチ）
- ・番組の企画提案を書く（企画・提案書の書き方）⇒提案会議で議論
- ・構成する（構成のたて方）⇒構成表を書く
- ・取材の実際
 - ・カメラワークの実際
 - ・インタビューの実際
 - ・レポートの実際
- ・編集する
- ・制作の仕上げ：ナレーションと字幕⇒「完プロ」
- ・視聴（情報発信）と事後検証



■2008年、プロジェクトゼミのスタートはラジオだった、なぜ？！

- ◇ことばによる表現がすべての基礎
- ◇「人の心と社会をまったく一つの共鳴室に変えてしまう」(M. マクルーハン)
- ◇語るメディアとしてのラジオ：メディアはメッセージだ！

■2011年からは映像メディアに展開

■2012年秋から「多摩大学学生ジャーナル」の取材、編集にも取り組む

■Something New !

誰も見たことがないものから、誰もが見ているが、見えていなかったものの発見へ
さあ、発見の旅へ！現場に立って考える、「歩行する思考」・・・

メディア実践論の精神

私たちが学ぶ多摩地域に目を向けて、
地域の魅力や課題を発見、番組化
（作品化）する。
⇒地域の記録者、情報発信者をめざす。

勉学や学内行事など、身近な大学生活
を見つめ、記録し、伝えることを通じて、
いま大学で学ぶ意味や課題について
考える。

地域に軸足、目は世界へ

ドキュメンタリーは
時代を映す鏡

「物語」を紡ぐ！
デジタル・ストーリー
テリングの可能性を
さらに豊かにひらく。

地域に根ざした
多摩大学発情報発信
に力強く参画をめざす。

発見 “多摩”

発見！多摩を深める

「大学」
を記録する

ゼミ活動・大学生活

家族
の
肖像
2016

見つめて
青春！

時代をどう生きる

私たち自身や何世代の人たちの姿
をとおして、社会と生き方を考える。
「極私的」リアル青春ドキュメント

「メディア実践論」2016企画から

1. 発見！多摩

- | | | |
|----------------------------------|----|------------|
| 1. 「“耳すま”散歩 ～アニメ「耳をすませば」の舞台を歩く～」 | 2年 | 奥原れいな・前川瑞稀 |
| 2. 「観察・多摩、ペットブームは今」 | 4年 | 大貫瑠奈 |

2. 大学を記録する

- | | | |
|------------------------|----|------------|
| 1. 「何を求めて～特別講座に集う人びと～」 | 4年 | 白石一偉 |
| 2. 「ゼミを撮る 日本大好きプロジェクト」 | 3年 | 入内島太一・開発勇太 |

3. 見つめて、青春 そして家族

- | | | |
|--------------------------|----|------|
| 1. 「家族の肖像・僕のじいちゃん、ばあちゃん」 | 2年 | 入口義之 |
| 2. 「青春リアル 素顔のYoutuber」 | 3年 | 杉田健人 |
| 3. 「僕って何？ 俺の知らない“ボク”」 | 3年 | 岩野元輝 |

4. わが街 故郷（ふるさと）散歩

- | | | |
|--------------------|----|------|
| 「めぐり歩き 鎌倉、江の島 七福神」 | 3年 | 澁谷翔太 |
|--------------------|----|------|

5. 物語を紡ぐ デジタルストーリーテリング

- | | | |
|-------------------------------|----|-------|
| 1. 「私の中国 2016年夏 広東財経大学研修旅行から」 | 2年 | 南 直人 |
| 2. 「魅力とパワー TEDに学ぶ会話術」 | 2年 | 市川侑弥 |
| 3. 「オドロキ 私の絶景ベスト10」 | 2年 | 亀井伸大朗 |
| 4. 「私の行ってみたい“廃墟”って・・・」 | 2年 | 高橋幸太 |
| 5. 「熱中少年 ゲーム時代ベスト5」 | 2年 | 小野寺翔 |

「学生ジャーナル」記事『メディア実践論の制作現場から』

- | | | |
|--|----|-------------------------|
| 1. 「う～ん、ロケはむずかしい！」 | 3年 | 岩野元輝 (No.12 2016.3.30) |
| 2. 「戻ってきた佐々木の“旅立ち”」 | 4年 | 佐々木 晨 (No.12 2016.3.30) |
| 3. 「いざ『セタ』へ！私の作品制作がはじまった」 | 3年 | 開発勇太 (No.13 2016.6.30) |
| 4. 「インタビューってむずかしい！」 | 4年 | 大貫瑠奈 (No.13 2016.6.30) |
| 5. 「『家族の肖像、ボクのじいちゃん』を撮る」 | 2年 | 入口義之 (No.14 2016.9.30) |
| 6. 「『“耳すま”散歩』制作を通して、多くの、学びと発見」
(発行予定) | 2年 | 前川瑞稀 (No.14 2016.9.30) |
| 7. 「人に伝わる作品をめざして」 | 2年 | 南 直人 (No.15 2016.12.30) |
| 8. 「秋からスタート！ユーチューバー・スギタの挑戦」 | 3年 | 杉田健人 (No.15 2016.12.30) |

さくらプロジェクト

奥山ゼミ（地域産業・中小企業研究室）

1. プロジェクトの目的～地域資源の力で多摩市を活性化～

聖蹟桜ヶ丘を擁する多摩市は、多摩ニュータウン地区だけでなく、桜が丘団地など、比較的古い時代に開発された住宅地を擁し、急速な高齢化の進行が懸念されている。

こうした中、子育て世代や子供にも魅力的な街であり続けるために、多世代交流の促進は大きな効果が期待される。そこで、本プロジェクトでは、桜ヶ丘の学童保育&カフェ「こどもリビング」などの協力を得て、多世代交流のためのイベントや仕組みを考えて実施するとともに、新たなお土産を開発するなど、聖蹟桜ヶ丘の街の魅力を向上するための各種イベントの企画・実施に取り組むものである。

2. 主な取組

（1）お土産開発

多摩の地域商社を標榜し、多摩各地でのご当地かりんとうの開発で実績を有する株式会社MNHの、多摩市聖蹟桜ヶ丘におけるかりんとう開発に協力した。

聖蹟桜ヶ丘のは「蹟」とは足跡を意味し、「聖蹟」とは聖なる足跡のことである。時の天皇が訪れた場所を聖蹟と呼び、明治天皇が兎狩り・鹿狩り、多摩川で鮎漁が数回の行われたことから天皇が行幸された「聖蹟」と、現在の駅周辺が桜の名所であったことから、2つを合わせて聖蹟桜ヶ丘となった。また、明治天皇の狩り場は現在「桜ヶ丘公園」となった。

こうした歴史を踏まえ、多摩市産の桜を原材料とし、「桜」のフレーバーを用いた「桜かりんとう」を開発した。商品のパッケージの文章は、学生自身が原案を作ったものである。開発した商品は、さくら通り及び聖蹟桜ヶ丘周辺で4月に実施された「せいせき桜まつり」で販売した。

（2）「水辺で乾杯 in せいせき」

7月7日に一ノ宮公園で開催された「水辺で乾杯 in せいせき」の企画・運営を行った。

同イベントは、乾杯しながら水辺の魅力を語り合うための企画で、「ミズベリング・プロジェクト」の一環として実施された。まずはゴミ拾いを行い、七夕にちなんで7時7分に、参加者全員が輪になり一斉に乾杯した。それぞれが会

話を楽しんだ後、最後には参加者で記念撮影が行われた。

なお、「ミズベリング・プロジェクト」は、水辺の新たな活用の可能性を創造するという目的で、行政・企業・市民団体等が共同で行っており、「水辺で乾杯」は全国約 300 の地域で実施されている。

（３）「KAOFES」ボランティア参加

９月 18 日に一ノ宮公園で開催された「KAOFES」にボランティアとして参加し、くじ引きや風船、型抜きコーナーを担当した。KAOFES は、子供達が「遊び」「学び」「仕事」を経験し、自分たちで考えながら街を創りあげていく、新しい形のフェスである。当日は多くの家族連れや子供たちの笑顔が見られた。

３．今後の課題

まずはお土産として開発した「桜かりんとう」の拡販が大きな課題となっている。まずはイベント販売を中心としながら、徐々に知名度向上を図っていく。

さらに、数々のイベントに参画した関係で、各種イベントへの参加要請が来ており、活動の強化と体制づくりが今後の課題となっている。



「水辺で乾杯 in せいせき」集合写真

地震発生後の対応について

～ICTを活かした問題の解決！次の災害に備えて～

環境・エネルギー班

メンバー

学部 川上兼佑(2年)

大学院 鈴木舜 西條裕介 妹尾義之

オブザーバー 新部均

教員 久保田貴文 荻野博司

テーマの設定, 研究目的

- 研究背景:
 - 東日本大震災から5年+情報通信技術の進化
 - 当時は解決出来なかった問題を解決出来る可能性がある
- 研究対象:
 - 地震発生後に起こりうる課題
 - ビッグデータ、ICTを活用できる場面
- 方法論:
 - 東日本大震災の課題を踏まえて、熊本地震での対応について検証
 - 時間軸で分類し、ニーズを抽出

→ 将来の災害に備えて提言

2016/12/10

アクティブラーニング発表会

2

東日本大震災における対策と課題

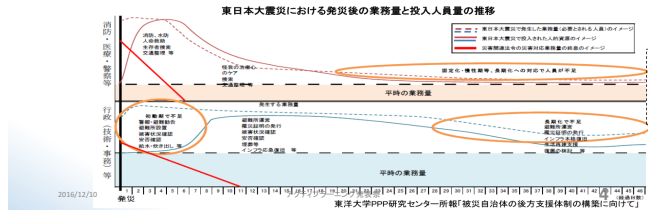
応急対策項目	課題
1. 情報収集・伝達	応急対策は地方自治体からの情報が前提。しかし、自治体の庁舎や職員が被災したことにより自治体の機能が低下し、政府は情報が来ない中で応急対策をせざるを得ない状態が発生した。
2. 救出・救助	救出・救助活動の各業種機関間の連携が一部で困難であった。
3. 災害医療	被災地における入院患者等への継続的な医療サービスに支障が生じた。
4. 緊急輸送体制	緊急交通路の確保等緊急輸送体制に混乱が生じた。
5. 物資輸送・調達	燃料をはじめ、必要な物資を必要なタイミングで届けることが必ずしも十分ではなかった。
6. 避難所運営・管理	避難所運営において時々々のニーズに応じた各種支援・サービスが十分ではなかった。
7. 広域連携体制の構築	被災自治体への支援調整が困難であった。
8. 広報	政府の対応に関する広報(災害応急活動等の広報、帰宅困難者の混乱を防止する目的の広報や海外への広報)が不足していた。
9. 海外からの支援	海外支援受入れにおいて混乱が生じた。
10. 女性や災害時要援護者への配慮	男女共同参画、障がい者、高齢者等への配慮が不足した。

出典:内閣府「東日本大震災における災害応急対策等について」
http://www.bousai.go.jp/chubu/29_29_sryc_5-1.pdf

3

具体例(広域連携体制の構築)

- 東日本大震災時の課題
 - 発災直後の初期期と長期支援に課題
 - 消防等の救命支援に比べ、避難所設置など行政側への職員支援は遅れがち。
 - 支援側は1週間程度の派遣を想定しており、支援期間が短期のため任せられる範囲が限定された。



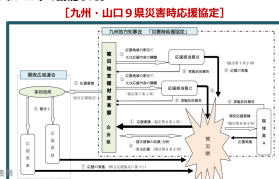
2016/12/10

東日本大震災における発災後の業務量と投入人員量の推移

4

具体例(広域連携体制の構築)

- 熊本地震の状況
 - 事前の計画
 - 「九州・山口9県災害時応援協定」を締結済み。職員派遣、物資提供など。
 - 今回の状況
 - 本協定に基づき、5/6時点で約1,400人が被災自治体で活動中。大部分がニーズマッチングを担当。
 - 評価(5/25九州知事会定例会議より)
 - 協定に基づく広域支援が進み、特にカウンターパート方式が上手く機能した。
 - 一方、初期態勢には課題が残った。
 - ※「具体的な職務や人数」が支援要請に必要とされていた。



2016/12/10

アクティブラーニング発表会

5

発災後の時間軸の定義

時間	名称
発災時～1時間後	発災
1時間～72時間後	A:救命期
72時間～1か月以内	B:避難期
1か月～1年	C:仮設期
1年以上	D:復興期
	E:常時

出典元:こんな支援が欲しかった!～現場に学ぶ、女性と多様なニーズに配慮した災害支援事例集を参考に定義
発行元 東日本大震災女性支援ネットワーク(支援団体)

2016/12/10

アクティブラーニング発表会

6

防災館・フィールドワーク

- 趣旨
 - 震災を体験してICTを活かせるかの模索
- 体験した内容
 - 震度7の地震の体験
 - 風速30メートルの暴風
 - 煙の中での行動
- 気づき
 - 安全:発災1時間以内の生存
 - 生活:生きるためのニーズとは?
 - 情報:時系列ごとのIT使用の変化
- 課題
 - 相手のニーズに合わせた情報提供が必要

日時:平成28(2016)年7月2日
場所:本所防災館
参加者:多摩大学大学院 鈴木、多摩大学 川上、久保田・荻野(教員)

2016/12/10

アクティブラーニング発表会

7

被災者の体験談

—西原村の消防団班長坂本啓司氏の体験—

- 自宅傍にある自主避難所(非正規)へ避難する被災者が多かった
- 発災から一週間は、避難所の雰囲気は予想以上に明るかった
- インフラ復旧、地域協定、自衛隊、企業・個人ボランティアによる支援
- 坂本氏が行った活動
 - 損壊住宅の見回り
 - プロパンガス元栓絞め
 - 仮設水道管の設置
 - 道路交通整理
 - 夜間パトロール(窃盗団)
 - 断水トイレのバケツ水洗
 - 汚れたトイレ掃除

辛かった! 本来なら、やらなくてもいいこと...

二日間徹夜で、約50回! 三日目、佐賀県役場から支援者が駆けつけた時、"神様"に見えたという。

西原村

8

2016/12/10

アクティブラーニング発表会

熊本フィールドワーク

・日時 平成28(2016)年8月19日～20日
・場所 熊本県・熊本市・益城町・西原村・南阿蘇村・
・参加者 多摩大学 三川上、久保田(教員)、多摩大学大学院Oa、新部

・被害状況を確認

- ・阿蘇大橋、東海大学阿蘇キャンパス、熊本城、阿蘇神社、益城町、他

・担当者にインタビュー

- ・西原村 消防団 田中壽聖氏(副分団長)、坂本啓司氏(構造計画研究所)
- ・熊本YMCA 益城町総合運動公園 副所長 丸目 陽子 氏
 - ・避難場所 益城町総合体育館



天井は鉄骨をかくす軒と人々を助けるエレベーター・スペース

ほとんど全壊状態となった阿蘇地区で、田中氏と坂本氏を案内する人(阿蘇町)は避難所(阿蘇市)は被災し、避難して人の力を倒壊家屋から救い出した(阿蘇市)。

2016/12/10

9

防災・減災等に資するICTサービス事例 全体図

「防災・減災等に資するICTサービス事例」を参照し、熊本地震での無償提供事例を簡単に調査した。

その結果、提供事例はそれほど多くない事が分かった。

	緊急地震速報	安心確認	被害調査	情報発信
災害発生時	1. 地震発生時の速報サービス	1. 安心確認サービス	1. 被害調査依頼サービス	1. 被害状況の速報サービス
	2. 地震発生時の速報サービス	2. 安心確認サービス	2. 被害調査依頼サービス	2. 被害状況の速報サービス
	3. 地震発生時の速報サービス	3. 安心確認サービス	3. 被害調査依頼サービス	3. 被害状況の速報サービス
	4. 地震発生時の速報サービス	4. 安心確認サービス	4. 被害調査依頼サービス	4. 被害状況の速報サービス
被災発生後	1. 被災発生後の速報サービス	1. 被災発生後の速報サービス	1. 被災発生後の速報サービス	1. 被災発生後の速報サービス
	2. 被災発生後の速報サービス	2. 被災発生後の速報サービス	2. 被災発生後の速報サービス	2. 被災発生後の速報サービス
	3. 被災発生後の速報サービス	3. 被災発生後の速報サービス	3. 被災発生後の速報サービス	3. 被災発生後の速報サービス
	4. 被災発生後の速報サービス	4. 被災発生後の速報サービス	4. 被災発生後の速報サービス	4. 被災発生後の速報サービス

[illegible]

既存の被写画像DB

大量の画像データから学習

全規模大規模半端半端に足りない

IN

調査対象家庭の写真

out

被害判定 類似画像等

- 避難所におけるトイレ
 - ICT活用による避難所間の備蓄用品調整
 - 仮設トイレ・バキューム車の効率的な手配
- 罹災証明書
 - 発行遅延に影響大きい第2次調査（詳細調査）へのICT活用
- 避難所の環境・医療の検討
 - 機動的、機能的な避難所
 - 避難所・医療機関の連携をICTで支援

●「防災・減災等に資するICTサービス事例」で取り上げられているサービスの特徴

1. 自治体や企業向けが多い
2. 「情報共有システム」は既にたくさん存在
3. 個人向けもあるが、**発災前後と1ヶ月程度以降**に有効なサービスが多い

救命期～避難期の避難所における課題解決に資するICTサービスはまだ少ない。
この部分に対して、本研究で提案する価値はある。

[illegible]

```
graph TD; A[避難所におけるトイレ] --> B[トイレ自体の需要と供給]; A --> C[トイレ清掃ボランティアの需要と供給]; B --> D[罹災証明書]; C --> D; D --> E[迅速な発行のため、被害写真を活用]; E --> F[避難所の環境・医療の検討]; F --> G[機動的、機能的な避難所]; F --> H[避難所・医療機関の連携をICTで支援];
```

避難所におけるトイレ

- トイレ自体の需要と供給
- トイレ清掃ボランティアの需要と供給

罹災証明書

- 迅速な発行のため、被害写真を活用

避難所の環境・医療の検討

- 機動的、機能的な避難所
- 避難所・医療機関の連携をICTで支援

多摩大学・広東財經大学教育交流プログラム（アクティブラーニング）in 広州

報告者：バートル（経営情報学部准教授）

萩原誠（4年）、荒井綺花（2年）、阿部慎吾（2年）、高橋昇希（1年）

2016年9月11日～16日にかけて多摩大学と広東財經大学が共同で教育交流プログラムを実施しましたので、概要を以下の通りご報告します。

1. 実施期間： 2016年9月11日（日）～16日（金）
2. 実施地：広東財經大学（中国・広東省広州市）
3. 参加者： 久恒啓一副学長、樋口裕一教授、バートル准教授、経営情報学部学生14名（1年生4名、2年生5名、3年生1名、4年生4名）の計17名
4. 本プログラムの実施背景と内容・目的

（1）背景

2015年4月、本学と広東財經大学は学術交流と留学生の相互交換に関する包括的な協定を締結した。これにより本学は広東財經大学にとって初めての日本における初め協定校となった。2015年度から今年度にかけて広東財經大学は教員1名、交換留学生計12名をそれぞれ本学に派遣したほか、広東財經大学内にて「多摩大学・広東財經大学交換留学生プロジェクトデスク」を設置するなど、本学との交流に積極的に取り組んできた。

これを受けて、本学では夏休みの期間を利用して両大学の教員と学生が一同に介し、より教育的効果の高い交流会を合同で行うべく、広東財經大学との協議を経て初の試みとしての本プログラムを実施することに至った。

（2）具体的実施内容と目的

双方の教員による合同講義の実施、学生同士によるプレゼンテーション、現地進出日系企業の訪問、工場視察である。上記プログラムは、教員同士の教育教授法の相互学習、学生諸君の多角的な視点や視野の広がり、直接的な交流による相互理解の促進を目的としている。同時に、アクティブラーニングの一環として現地の日系企業を訪問するなどして、学習意欲の向上と海外留学への動機付けという観点から海外を体験する機会提供も本プログラムの重要な目的である。

5. 総括：

- （1） 双方の教員による講義は、学生たちに複眼的に物事を捉える視点と学力の向上に役たつものとなった。また、教員同士においても教育、教授法の改善や充実の観点から

非常に有益な教育交流の機会となった。

- (2) 学生同士による合同発表会の実施により、参加した学生たちは物事を分析し、その本質を探り、最終的に解決策を提示するプロセスにおいて、より広い視点に立って複眼的に物事の本質を捉えることの重要性を認識することができたのではないかと思われる。今回のプログラムに参加した学生たちは事後報告において「現地の大学生は日本に対して偏見もなく、我々を客人のようにもてなしてくれた。自分の視野の狭さを知り、人間って国籍どうこうではないのだと感じた」「日本人の学生から色々と日本のことを学びたいという意気込みを強く感じた」「日本のメディアの報道と違って環境はそんなに悪くないし反日デモも無い中国の一面を見ることができた」などと述べているように中国や中国の大学生に対する印象が変わったようである。
- (3) 企業見学を通じて、学生諸君にはグローバルな舞台でビジネスを推進する上で何が重要なのか、企業が求める人材像とは何か、といった問題意識を持たせることができ、また今後キャンパスライフを送るうえで注力すべき分野や目指すべき目標も明確になったのではないかと思われる。
- (4) 両大学間では、今後学生だけでなく教員同士の交流を深化することについて認識が一致した。特記すべきは、今回の交流がきっかけで双方の参加教員をメンバーとする中国国内の科研の共同研究がスタートしたほか、来年中国への留学を希望する学生も現れるなど、当初の予想以上の成果を上げることができた。

中国・広東財経大学短期留学プログラム日程表（9月11日～16日）

月日	午前	午後	夕方
9月11日 (日)	①7:15羽田国際線ターミナル3階出発ロビー Y団体カウンター7番、8番集合 ②NH923便9:15発 広州白雲空港13:05着	麗楓酒店チェックイン（広東財経大学構内）	歓迎会
	機内食		博雅軒
9月12日 (月)	7:00ホテルロビーで集合、朝食ガイド ①8:00～9:30 授業見学（「日本語同時通訳」） ②10:00～11:40講義（日本経済）	14:00～16:00企業訪問（明治アイスクリーム）	珠江ナイトクルーズ
	朝食（学食）	昼食（学食）	夕食（珠江ナイトクルーズ船）
9月13日 (火)	朝食後、8:30出発 10:00～12:00 企業訪問（広州トヨタ自動車）	①14:30～17:30日中大生による発表会（「共通科目」） ②15:00～17:30公開講座（久恒啓一教授）	19:00～20:30公開講座（樋口裕一教授）
	朝食（学食）	昼食（学食）	夕食（学食）
9月14日 (水)	朝食後、8:30出発 10:00～12:00深圳市ホンハイ（富士康集団）訪問	深圳市内視察（翌日が中秋節で道路が混雑する可能性が高いため、昼食後は直接広州に戻る予定）	パーティー
	朝食（学食）	ホンハイ社内食堂（お弁当）	夕食（パーティー）
9月15日 (木)	朝食後、8:30出発 広州市内視察（孫中山大元帥府、沙面、陳家祠、上下九步行街など） ※久恒先生ご帰国		
	朝食（学食）	昼食（広州市内レストラン）	夕食（広州市内レストラン）
9月16日 (金)	11:00ホテル出発	広州白雲空港NH924便14:15発 羽田国際空港19:45着・現地解散	

以上

多摩大学 アクティブ・ラーニング祭 参考資料

見山ゼミ スライド共有サービス企画

スライドの特徴

- 図：関係性がわかりやすい
- 軽量：動画に比べてサイズが小さい
- 説明：見せながら説明できる
- シンプル：文章が少なく、まとまっている
- カスタマイズ：簡単に独自性が出る

図 1：「スライドの特徴」

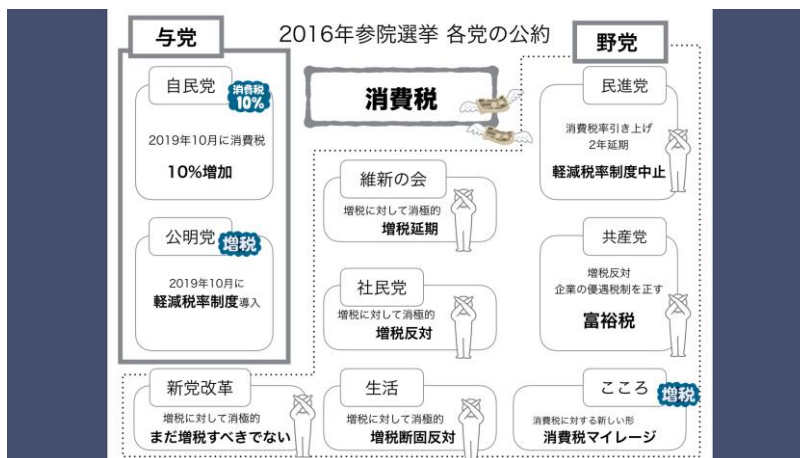


図 2,3 「スライドで作った結果」

経営計画

フリーミアム戦略

資金源は主に広告収入

3年目以降から売上を出す

図 4 : 「経営計画」

図 4 に書いてある通り、このサービスはビジネスモデルとしてフリーミアム戦略をあげる。サービス利用者は基本的には無料でサービスを利用できる。日本にある多くの SNS と同様のビジネスモデルだ。資金源は主に広告収入をあげるが、事業スタート後の一年目は事業の基盤づくりであり、3 年目以降から売上を出すことを予定している。尚、その間の経費については、多摩大学発ベンチャーであることから、多摩大学のインフラを活用し、最小限に抑えることが可能である。

事業スタート後の売上高は 2 年間 0 円であるが、3 年目の見込みとしてはサイト内に掲示する「広告のクリック数 1 回」を商品としたとき下記のとおりになる。
商品の平均単価 × (3 年目利用者数 × 1 日の訪問率 × 1 日の広告クリック率 × 1 年) 1 円 × (30 万人 × 50% × 10% × 365 日) = 5,475,000 円

今後については、図 5 の通りターゲット層、利用シーンを拡大させていく方針。

今後…

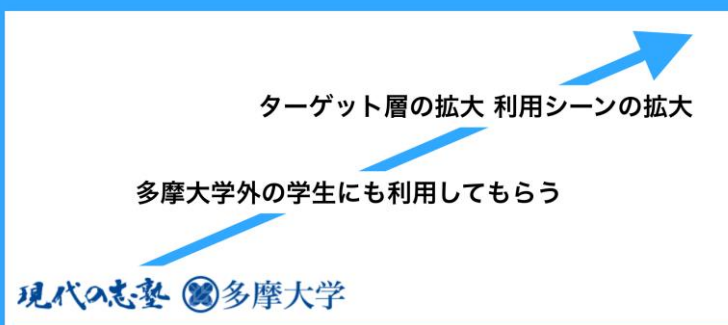


図 5 : 「今後の方針」

子ども自由研究アシストプラン

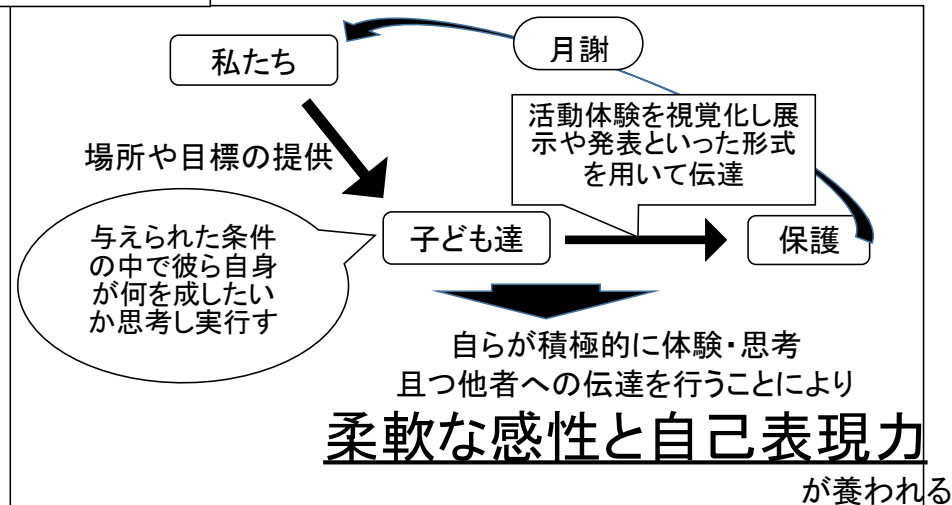
～現代教育に情操的エッセンスを～

事業提案背景

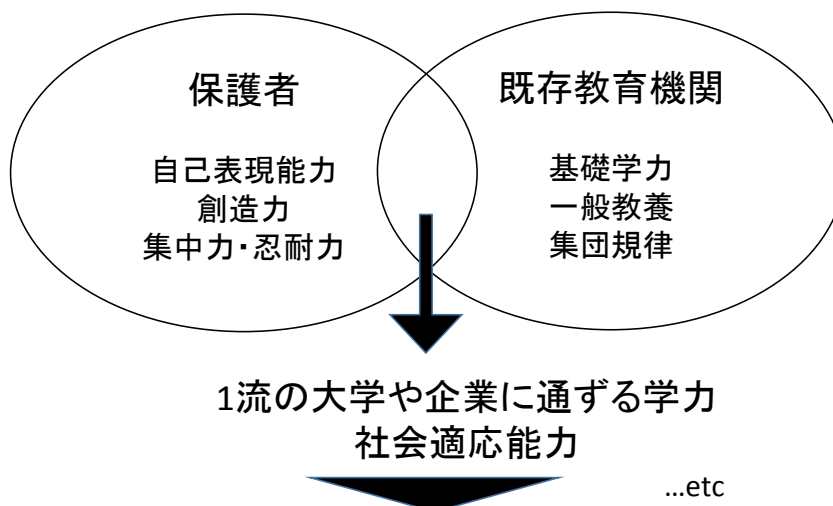
現代の子供たち(=小・中学生)は義務教育課程を通し、これからの人生において必要になるであろう学術的知識や一般教養などを学んでいる。これ自体は子供たちが社会へと巣立ち順応してゆくには必要な手順であるが故に否定はしない。しかしながら彼らは家族や周囲の意向・時には本人の意思の元でその学びに執着しすぎている。その目的は大抵がそう遠くない未来に迫った受験や就職において自身を着飾るためだけのモノであり、真に自己を成長させるものではない。その影響で“頭のいい子”や“礼節の整った子”は育つが、本当の意味で“柔軟な感性と自己の表現能力”：有した存在は極めて稀有な存在である。

本来であれば小・中学生という多感な時期にこそ、個々の感性を刺激できる情操的な教育こそが求められている。事実、幼い子供を持つ家庭の親は自身の子たちに身に着けてほしい能力として“豊かな創造力”や“自己表現能力”を挙げている。現状、教えなければならない事象と身に付けさせたい事象に齟齬が生じてしまっているのが実情であり、その不協和を解消する手立てを本ビジネスプランにて提案する。

事業概要



教育市場の現状



教育を施す側の人間の期待や願望が
受益者である**子供たち**への精神的な枷となっている

※平成26年度 学習費総額

区 分	幼稚園		小学校		中学校		高等学校(全日制)	
	公立	私立	公立	私立	公立	私立	公立	私立
学 習 費 総 額	222,264	498,008	321,708	1,535,789	481,841	1,338,623	409,979	995,295
公立を1とした私立の比率	1	2.2	1	4.8	1	2.8	1	2.4
うち学校教育費	119,175	319,619	59,228	885,639	128,964	1,022,397	242,692	740,144
構成比(%)	53.6	64.2	18.4	57.7	26.8	76.4	59.2	74.4
公立を1とした私立の比率	1	2.7	1	15.0	1	7.9	1	3.0
うち学校給食費	19,382	36,836	43,176	46,089	38,422	4,154	---	---
構成比(%)	8.7	7.4	13.4	3.0	8.0	0.3	---	---
公立を1とした私立の比率	1	1.9	1	1.1	1	0.1	---	---
うち学校外活動費	83,707	141,553	219,304	604,061	314,455	312,072	167,287	255,151
構成比(%)	37.7	28.4	68.2	39.3	65.3	23.3	40.8	25.6
公立を1とした私立の比率	1	1.7	1	2.8	1	1.0	1	1.5

※出典：文部科学省.平成26年度「子供の学習費調査」

2016 年度 多摩大学 石川晴子ゼミ
多摩市立諏訪小学校 放課後子ども教室「諏訪小ふれんず」
「英語であそぼう！」プロジェクト

参加メンバー： 石川晴子ゼミ 2, 3 年生（計 26 名）

I. 諏訪小ふれんずとは

放課後の児童の安全な居場所を提供する場として、東京都多摩市がサポートする、諏訪小学校の放課後子ども教室のことです。多摩市教育連携コーディネーターが中心となり、大学生（現在は多摩大学石川ゼミと法政大学ボランティアサークルの学生）、教員、地域住民、児童館職員が連携し、協同で運営しています。参加する大人は全員、安全管理員として市に登録します。

児童の参加は、保護者の承諾を要するため、登録制となっています。対象学年は、3～6 年生で、開催日は主に、火曜日（自由遊びの日）、金曜日（学習の日）の週 2 日です。責任者として地域住民 2 名の参加が必要なため、日にちによっては開催できないことがあります。

開催日の候補は、月 1 回の定例会議で決まり、各団体の代表者が、参加したい日にちを申請する仕組みとなっています。連絡は、代表者はメーリングリストを通して、全体では TOWNTIP という SNS を通して行います。TOWNTIP への登録は、参加者全員必須となっています。

諏訪児童館、諏訪小 PTA、おはなしの会、おやじの会と共催で「流しそうめん&スイカ割り」、「ハロウィンのかぼちゃランタンづくり」、「すわっこまつり」、「こどもまつり」、「どんど焼き」などのイベントも実施しています。

II. 石川ゼミ「英語であそぼう！」プロジェクトとは

上記「諏訪小ふれんず」の金曜日（学習の日）に行っている今年 6 年目となるプロジェクトです。具体的な内容は、ゲームや遊びを中心とした英語授業（フルーツバスケット、英語カルタ、神経衰弱、数字すごろく、など）で、学生が教材作成を含め準備から実施まですべて行います。

「諏訪小ふれんず」の登録児童は 70 名弱ですが、1 回の平均参加人数は 15~20 名程度です。英語授業のあとに遊びの時間があり、大学生はバドミントン、ドッチビー、大縄跳び、動

物将棋などを使って子どもたちと自由に遊びます。終了後は、地域の安全管理員と大学生で反省会をします。

今年度はゼミのプロジェクト参加メンバーを 6 グループに分け、ローテーションで実施しています。定例会や「諏訪小ふれんず」のイベントにも参加しています。

最近の参加実績

	「英語であそぼう！」 実施回数	「英語であそぼう！」関連イベ ント参加・実施回数	プロジェクト 参加学生数
2011	-	0	17
2012	-	1（ハロウィンランタン作り）	15
2013	12 回	3（多摩大学永山学園祭、流し そうめんとスイカ割り、国際コ ミュニケーションデー）	13
2014	15 回	2（流しそうめんとスイカ割り、 すわっこまつり）	17
2015	16 回	2（流しそうめんとスイカ割り、 すわっこまつり）	21
2016	10 回（11 月 30 日現在）	2（多摩祭公開講座、すわっこ まつり）	26

III. 「英語であそぼう！」プロジェクトのねらい

1. 小学生に外国語を学ぶ楽しさを伝える。
2. 小学生に英語の授業をすることにより、伝えたい内容をしっかり相手に伝えること、伝え方に工夫すること、相手の気持ちを読み取ること、いろいろな出来事に適切に対処することを学び、自らの成長につなげる。
3. 仲間と協力してプロジェクトに取り組むことで、よい人間関係を築く方法を学ぶ。また、グループワークのやり方について体験的に学ぶ。
4. 地域・社会の中の自分の位置と役割、社会貢献について、理解と考えを深める。

2016 年 12 月 10 日
アクティブ・ラーニング発表祭 資料

格差を考える

発表者：下井ゼミー上杉 秀一、紙谷 祐輔、矢島 大喜

内容：

1. 格差の認識について

あなたは格差が拡大していると思いますか？

2. 日本に格差はあるのか？

3. 海外の貧困率について

4. 日本の所得税について

5. 私たちの提案

MEMO

B-4 足利市活性化のための観光ビジネス開発プロジェクト

松本祐一ゼミ

1) メンバー

松本ゼミ 2・3年生 16名

教員：松本祐一 計 17名

企画協力：NPO 法人コムラボ

2) 目的

栃木県足利市は、昔は織物業が栄えていて、昔のような活気はなくなり、仕事がないことから若者は東京に流出してしまっている。

今回の合宿ではその歴史や文化から生まれた足利の多様な資源を活用し、外部から人を呼び込める観光ビジネスプランを作成する。また、その観光ビジネスが足利市内に魅力的な仕事を増やし、若者流出という課題解決につながることを目指す。

3) 活動内容

春学期：事前学習、事前視察の実施

合宿（9月5日～7日）ゼミ生を3チームに分けて企画提案を行った。

1日目→足利市の歴史を知れる、または重要な場所の訪問を行う

2日目→フィールドワーク

3日目→NPO 法人コムラボや足利市役所にビジネスプランのプレゼンテーションを行う

4) 企画内容

A：「織物をレンタルできるゲストハウスをつくる」

2020年オリンピック開催地が東京に決定し、多くの観光客が来ることが見込まれている。東京の宿泊施設14万室に対して必要とされる部屋数は173万室とされており宿泊施設が足りないという問題が推測される。そこで東京近隣の県にも宿泊施設が必要であるという考えから足利市にゲストハウスを作る。さらにそこに足利要素を取り入れた体験を取り入れる企画となっている。

B：「古民家再生体験」

事業内容は使用されていない古民家をメインターゲットである大学（ゼミ、サークル等）などの教育機関が自分たちの好きなように改装してもらい。改装中の作業風景をSNSで紹介する。そうすることにより、足利のことを知ってもらうきっかけになる。実際に改装するとなると、専門的な知識・技術が必要になるので、元大工などの方に指導協力してもらう。再生（改装）した古民家は合宿などの宿泊地として利用できる。また、使っていない

期間は他の団体への貸し出しで有効活用できる。

C：「足利具材ラリー」

足利具材ラリーは「縁を深める」をコンセプトとしている。足利市には縁を結ぶものがあることを活用し、同僚やサークル仲間、男同士もターゲットにしたいため「縁を深める」という表現にした。縁の深め方として「織姫神社」、「苦労を共にする」、「マール牛（マール＝丸＝円＝縁）」、「バーベキュー」の4つを私たちは考えた。内容は足利市の観光名所（足利学校等）に野菜やマール牛を手に入れることができる観光名所に因んだミッションを用意する。参加者の方には野菜、マール牛を求めて様々な観光名所に回ってもらう。ミッションをクリアして得た野菜、マール牛を使用して織姫公園にてバーベキューとなっている。

この足利具材ラリーはコンセプトである「縁を深める」だけでなく足利の歴史を知ってもらう、また感じてもらうのも目的としている。歴史を感じさせる方法として観光名所から観光名所まで各自移動してもらうことにより、観光名所の歴史のみならず足利市の街並みを見て歴史を感じられる仕組みとなっている。

5) 課題と成果

〔課題〕

- ・ 事前調査

プランのイメージを具体的にすることが必要だった。

- ・ 現地調査

フィールドワークを有効活用しプランの細部まで決める必要があった。

〔成果〕

- ・ ビジネスプランを考える上でフィールドワークや現地の方々の声の大切さを実感できた。
- ・ 活動の様子が、栃木テレビや読売新聞に取り上げられた。



フィールドワーク先：足利学校での記念撮影

「長崎が拓いたアジアとヨーロッパの交流」

2016年度インターゼミ アジアダイナミズム班
学部生: 和泉遼, 西條史都, 山口夏実
大学院生: 上岡正明, 城崎彰子
卒業生: 王星星, 越田底宏, 高橋晋也, 塚原啓弘
(計9名)

歴史観 グローバル・ヒストリーの歴史認識の境界 (西洋中心でないアジア人の世界史観へ)

世界史観	近世・近世	近世(江戸期)	近代(明治～昭和戦前)	現代(戦後)
日本史 価値観: 共生、多神教、中庸、フロンティア精神、価値観: 経済(万民経済)	● 拡大社会 ● 戦争、神教 ● 鎖国政策: 自立と自衛の過程 ● 四つの国: 道徳と通商 ● 鎖国政策: 自立と自衛の過程 ● 四つの国: 道徳と通商 ● 鎖国政策: 自立と自衛の過程 ● 四つの国: 道徳と通商	● 拡大(藩村)社会 ● 産業育成(内海拡大) ● 四つの国: 道徳と通商 ● 鎖国政策: 自立と自衛の過程 ● 四つの国: 道徳と通商 ● 鎖国政策: 自立と自衛の過程 ● 四つの国: 道徳と通商	● 近代(明治～昭和戦前) ● 西洋文明の価値観 ● 鎖国政策: 自立と自衛の過程 ● 四つの国: 道徳と通商 ● 鎖国政策: 自立と自衛の過程 ● 四つの国: 道徳と通商	● 現代(戦後) ● 米国の価値観 ● 科学技術 ● 数量評価 ● 鎖国政策: 自立と自衛の過程 ● 四つの国: 道徳と通商 ● 鎖国政策: 自立と自衛の過程 ● 四つの国: 道徳と通商
世界史 (欧米史観)	● 中国開封(茶葉、華商貿易)→ 通商口岸、租界、領土 ● 欧州に植民地主義→ 中国文化の威嚇(孔子哲学、統制)	● 中国開封(茶葉、華商貿易)→ 通商口岸、租界、領土 ● 欧州に植民地主義→ 中国文化の威嚇(孔子哲学、統制)	● 中国開封(茶葉、華商貿易)→ 通商口岸、租界、領土 ● 欧州に植民地主義→ 中国文化の威嚇(孔子哲学、統制)	● 中国開封(茶葉、華商貿易)→ 通商口岸、租界、領土 ● 欧州に植民地主義→ 中国文化の威嚇(孔子哲学、統制)

出所: 藤田直史

2. 長崎の地政学

◆「四つの口」とは、江戸時代「鎖国」政策下で対外に開いていた4つの場所を指す

1. 対馬 対馬藩を介した朝鮮王朝との国交・貿易関係
2. 琉球 薩摩藩を介した琉球王国との交易関係
3. 長崎 幕府直轄開港地。オランダ・中国(清)との貿易関係
4. 蝦夷 松前藩を介した蝦夷(アイヌ)との通商関係

7

目次

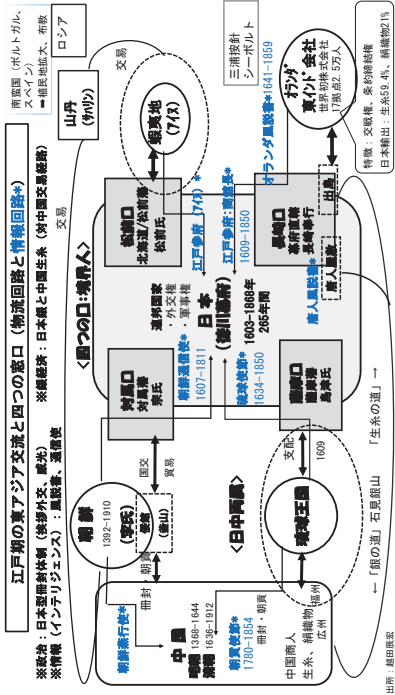
1. 2014年度の対馬と2015年度の琉球を踏まえた今回の長崎研究
2. 長崎の地政学
3. 長崎とアジア・ヨーロッパ交流史
4. フィールドワーク報告
5. 参考文献77件

2. 長崎の地政学

- ◆長崎開港の立役者
大村純忠(最初のキリシタン大名)
- ◆1562年 横瀬港を開港、イエズス会の拠点とする
(教会建設や関税の優遇)
- ◆1570年 長崎開港
貿易都市として大村氏の直轄支配

3. 長崎とアジア・ヨーロッパ交流史

- 3-1. ウィリアム・アダムスはいかにして三浦按針となりえたのか
- 3-2. オランダ東インド会社と日本の経済的関係はどのようなものか
- 3-3. オランダ東インド会社とイギリス東インド会社の貿易戦略の違いは何か
- 3-4. なぜ長崎が港湾都市となったのか
- 3-5. 長崎はなぜキリスト教と切ってもきれない関係であったのか
- 3-6. 長崎と中国の交流史とその「共通点」



2

周辺領主からの攻撃を受け、大村氏の支配体制の崩壊
代わって長崎の商人が自治組織を結成

自治化の動きが進む

- ◆1580年 大村純忠が長崎をイエズス会に寄進
(小ローマと称される、自治化の防止策)
- ◆1592年 豊臣秀吉が長崎奉行所設置・直轄領
(その後徳川氏に引き継がれ天領に)

5

3-1. ウィリアム・アダムスはいかにして三浦按針へと変化したのか

- ◆もともとウィリアム・アダムスという人物
- ◆英国(イギリス)人
- ◆青い目の侍として徳川家康の外交顧問として活躍した

帰国しなかった原因

- ①セーリスが13年間住み慣れ、日本人化した按針に嫌悪感を抱いたこと
- ②三浦按針は、日本を蔑視し狼藉を働く英國の海の男たちを疎ましく感じた



三浦按針の像
出所: 平戸オランダ商館にて和泉直史撮影

8

3-1.ウィリアム・アダムスはいかにして三浦按針へとなりえたのか

◆課題①語学習得を命ぜられていた三浦按針

- ・三浦按針は**朝鮮語**と**ロシア語**を学べと徳川家康から命じられていた
- ・蝦夷とアイヌの通商関係

◆課題②母国(イギリス)との関係性

- ・英国は、三浦按針のアドバイスもあり日本との交易を望む使節を送る。1613年6月英国船クローヴ号が平戸に到着、これを機会に按針は帰国を決意。徳川家康はやむなく許可したが帰ったところで安定した地位や役割は保障されない。そして英国船船長セーリスとも仲たがいが

10

3-2.オランダ東インド会社と日本の経済的關係

◆中国産生系の需要

- ・中国産生系は当時最高級品
- ・日本では身分制度が始まり絹の服＝身分が高いと視覚化ができるように使用された
- ・戦に備えた甲冑にも頑丈な生糸が必要であった

◆中国における新税法

- ・一条鞭法の導入により貨幣経済が始まる
- ・銀貨の流通のために大量の銀を必要としていた

13

3-3.オランダ東インド会社とイギリス東インド会社の貿易戦略の違いは何か

◆西洋諸国を先駆けた二つの東インド会社

VOC(オランダ東インド会社)

- ・莫大な資本金6,424,588ギルダー
- ・六つの先駆諸会社
- ・アジア広範囲に渡る拠点拡大
- ・最初の株式会社と言われるほど、現代に近い方式で決算を行っていた
- ・東インドとの航海の実績があった

EIC(イギリス東インド会社)

- ・資本金約530,000ギルダー
- ・先行モデルは「レヴァント会社」
- ・VOCからの攻撃もしばしばあった
- ・一回の航海ごとの決算
- ・出資者にためらいがあった

16

3-1.ウィリアム・アダムスはいかにして三浦按針へとなりえたのか

◆研究成果

- ①三浦按針の活躍
- 西欧の大国との外交という難題を乗り越えることができた
- ・経済を立て直し、国内の大名たちに厳然とした力を示すことができた
- ・西欧の最新技術を導入し、天下統一を実現した
- ②母国(英国)には帰国しなかった

11

3-2.オランダ東インド会社と日本の経済的關係

◆オランダ東インド会社と日本を結びつけたのは**利害関係の一致**

- ・オランダは香辛料貿易の支払いに使用する**銀・銅**が必要
- ・日本は**中国産の生糸**が必要
- ・中国は**日本の銀**が必要

◆オランダ東インド会社は貿易仲介人として日本と中国の国交なき交易を支え、あくまで**経済的な利益のみ**を求めた

14

3-3.オランダ東インド会社とイギリス東インド会社の貿易戦略の違いは何か

◆経済的貿易戦略～東インド会社による拠点拡大～

“利益を追い求めた”VOCの限界点 -南アジア支配-

VOC・オランダ

- ・オランダの平等精神
- ダッチアカウント-
- ・東南アジア海域独占支配
- ・鄭成功に追い出された台湾

EIC・イギリス

- ・スペイン無敵艦隊に勝利
- ・インド支配権の死守
- ・その後のミャンマー、アフリカ、南米支配

17

3-2.オランダ東インド会社と日本の経済的關係

◆オランダ東インド会社による中継貿易の目的

- ・最終目的は大量の香辛料の入手
- ・香辛料の買い付けに金、銀、銅などが必要

◆日本の銀

- ・日本は銀の産出が豊富(石見銀山など)
- ・当時の世界の産出量の1/3が日本の銀
- ・日本貿易で手に入れた銀が香辛料の買い付けに使用されていった

12

3-3.オランダ東インド会社とイギリス東インド会社の貿易戦略の違いは何か

◆オランダのアジア進出

- ・スペイン・ポルトガルの衰退(宗教派の違い)

カトリック派スペイン・ポルトガル
プロテスタント派イギリス・オランダ

- ・アジア進出せざるを得なかったオランダ

リスボン寄航禁止
アムステルダムへの移民により大きな資金が集まる

15

4. フィールドワーク報告

4-1. 長崎県視察(平戸市、出島、長崎大学等)

4-2. 神奈川県横須賀市逸見町視察(浄土寺、三浦按針供養塔)

4-3. 「アジアをつなぐ長崎ロード～日中の絆を深めた人々～」シンポジウム参加

18

アクティブラーニング祭

ゼミ発表

栢原ゼミ

一タイトル

「ローカル鉄道のビジネスモデル」のフィールドワーク

二問題意識

・乗降客の減少が続くローカル鉄道は、どのようにして企業としての生き残りをはかっているのか？

三事前学習①

- ・鉄道のビジネスモデル(阪急電車創設者小林一三など)の理解
 - ・関東近郊のローカル鉄道の会社情報の収集
 - ・千葉いすみ鉄道の取材番組にて経営の多角化の様子を理解。
- 埼玉の秩父鉄道に決定

四事前学習②

- ・有価証券報告書にて「秩父鉄道」の経営状況を理解。
- ・フィールドワークの日程計画立案。

五フィールドワーク実施

- ・11月5.6日にて実施
- ・秩父鉄道の経営の多角化を理解。
- ・関係者のインタビューなど

以上

MEMO

マイナンバー制度の 不安解消策に対する意識調査

21311021 石塚北斗

研究の背景

- マイナンバー法
「行政手続きにおける特定の個人を識別するための
番号利用等に関する法律」
2015年10月に施行
目的 ・公平・公正な社会の実現
・国民の利便性の向上
・行政の効率化を目的
- しかし、名前は知っているが制度の内容を知らない人が多い

研究の目的

マイナンバー制度を騙った詐欺事件や自治体や民間業者の漏洩，
誤廃棄が多発 → 市民の不安

政府は市民の不安に対する解決策を講じている
→ 周知されていないのでは？

そこで

**市民の不安に対する解決策の周知がなされているか，その
実態を明らかにし，不安解消策に対する市民の意識を
明らかにすることを目的とする。**

研究の方法

- 予備調査
・内閣府による世論調査の分析
・東京都内の自治体における特定個人情報保護評価書に
対するパブリックコメントの調査
- 本調査
不安解消策に対する意識調査
30代から50代を対象にしたインタビュー調査
- インタビュー＝結果の分析

予備調査 (内閣府調査の分析)

- 目的：20歳以上の人々の意見を確認することを目的とする
- 出典：マイナンバー（社会保障・税番号）制度に関する世論調査
(2015.9.3)
日本国籍を有する3000人が対象（有効回収数1773人）
アンケート調査

予備調査 (内閣府調査の分析結果)

- 認知度
「内容まで知っていた」(43.5%)
「内容は知らなかったが，言葉は聞いたことがある」(46.8%)
「知らなかった」(9.8%)
→ 大多数の人がマイナンバー制度について認知している。
- 不安
「個人情報漏洩することにより，プライバシーが侵害される」
(34.5%)
「マイナンバーや個人情報の不正利用により，被害にあう」(38%)
「国により個人情報が一元管理され，監視，監督される」(14.4%)
→ 上記3つが不安要素の大部分を占めている。

予備調査 (内閣府調査の分析結果)

- 期待
「社会保障，税，災害対策に関する行政事務で添付書類が減るなど，手続きが簡単になる」(38.7%)
「個人カード1枚で，健康保険証など複数の機能をもたせることができるようになる」(32.9%)
「社会保障の不正受給や税の不正還付を防ぐことができるようになる」(27.5%)
「社会保障，税，災害対策の各種行政事務の効率性が高まる」(22.8%)
「社会保障を必要としているにもかかわらず，制度を知らないために機会を逃して人への給付ができるようになる」(21.6%)
- しかし
「特に期待することはない」(31.2%)
→ 期待していない人も1/3近くいることがわかった。

予備調査 (パブリックコメントの分析)

- パブリックコメントが確認された自治体数
22市区町村／53自治体（島嶼部除く）
区部 12区／23区
市部 10市／30市
- パブリックコメントの件数
最多 足立区 165件
2番目 世田谷区 147件
- わかったこと
 - ・ほとんどの自治体でのパブリックコメント数 2～10件
 - ・約半数以上の自治体にパブリックコメントは付いていない
 - ・区部と市部を比べると区部の方が意見の数は多かった
 - ・区部住人の方が関心が高い可能性あり

意識調査の方法

- 目的：政府の用意している不安解消策に対する意識を明らかにする
- 調査期間：2016年7月～11月
- 調査対象：30代～50代の勤労者
若年者と比べ，マイナンバーの利用や管理などで実際に利用する機会が多いと考えられるため
- 調査方法：インタビュー調査

調査内容

- 内容
関心を問う設問
不安を問う設問
妥当性を問う設問
期待を問う設問
- インタビュー方法
1人あたり1時間程度
1対1

分析結果（途中経過）

- 今回インタビューした7名のうち5名が内容まで大まかに理解しており関心は高かった。
- 不安要素については漏洩や不正利用といったものが多く懸念されていることがわかり，また解決策についても十分にしてくれているとはいえやはりまだ不安という声も上がっていた。
- 期待の面では，これから年を重ね年金を受け取るにあたりマイナンバーが管理してくれているからなにもしないよりはまだ期待が持てるといったような意見が上がった。

今後の課題

- インタビューの分析を進める
- 更に正確な分析をするための方法
 - ・インタビューの回答を丁寧に見るだけでいいのか
 - ・統計手法を用いるとすれば，どのような分析が可能か
- 不安解消策の周知を行うためにはどうしたらいいか

平成 28 年度多摩大学経営情報学部アクティブラーニング発表祭

発表番号 B-8 多摩グリーンライブプロジェクト 2016

梅澤ホームゼミナール 高橋 慶・田中英治・永井敦也・西澤良太・山口正春（3 年）
荒井浩樹、小林竜太、山田幸樹（2 年）

I. ガーデンシティ多摩センター

こどもまつり

1. 概要

2010 年より一本杉公園みどりの会と連携し、多摩市立グリーンライブセンターで開催される「こどもまつり」に参加している。今年度は、竹を使用して竹細工の制作（竹馬・竹ぼっくり・竹笛）や体験（ちゃかぼこ・竹水鉄砲）を行った。

活動の目的は、親子で竹細工を体験してもらうことでの親子の絆づくり、みどりの大切さへの気づきの場を提供すること、地域の方や子どもたちにグリーンライブセンターを知っていただき、日常的に利用してもらうことである。

2. 活動内容と実績

（1）事前準備と打ち合わせ

3/25・4/9・4/25 に事前準備を行った。内容は新体制の顔合わせとイベント内容の確認、材料の準備、ポスターの作成などである。

（2）当日の活動

5/3・4・5@多摩グリーンライブセンター

梅澤ゼミは 3・2 年生が 3 日間でのべ 30 名活動を行った。1 日目は 10 時に竹細工販売を開始。ちゃかぼこの制作は同時進行。13 時開始予定だった水鉄砲を 11 時半頃に準備が整っていたため前倒しで開始。13 時終了予定だった竹細工は、次の日が雨予報だったため引

き続き販売し 15 時に終了した。2 日目（5 月 4 日）は強風だったため場所を変更するなど工夫した。14 時には恵泉女学園主催のメイポールダンスの支柱を支える役として協力。15 時に終了。3 日目は完売を目指した。

（3）今年度の活動実績

3 日間の参加者数は 320 人（市内 122 人、市外 198 人。男子 131 人、女子 189 人）であった。男子より女子が多かったこと、多摩市内より市外からの参加が多かったことが意外であった。「このイベントで竹馬が作ってもらえると知って来た。」という川崎市在住の親子や「連休に祖父母の所（多摩市内）に来ると必ず遊びに来る。」という親子などが多い。

3. 外部評価

「こどもまつり」は梅澤ゼミがいてこそ成り立つため、いなければならない存在になった。ただ経験不足と技量不足ということもあり、一本杉公園みどりの会の方々に任せきりになっていたこともあった。中には遊んでいた学生もいた。自由裁量で行動しがちな一本杉公園みどりの会の方に梅澤ゼミ側も臨機応変に動けるようになってほしい。来年に向けては今年のことをしっかりと 2 年生に引き継ぐこと。多摩市 GV 連絡会事務局

今回は本当に良いこどもまつりを作れたと思う。ただメールの行き違いが多々あったので梅澤先生に必ずチェックをもらってからこ

ちら側に出していただけると助かる。T シャツがないということがあったようなので、統括が事前に余っている人からもらってそういう事態をなくせるようにする。全体的に学生と一本杉公園みどりの会の方とのコミュニケーションが少ないので、もっとコミュニケーションをとるようにした方がいい。来年に向けては臨機応変に対して学生と一本杉公園みどりの会の方との連携をしっかりとできるようにすること。 多摩市 GV 連絡会事務局

4. 活動から学んだこと・感想

今回統括としてこどもまつりに参加して、まず連携をとる難しさを感じた。連携先や学生間でのメールの行き違いや活動において対応できなかったこともあり大変だった。臨機応変に対応すること、自分が動くのではなく、メンバーに動いてもらえるよう指示を出すことが大事だと思った。またメールの行き違いに関しては梅澤先生に一回確認を貰ったうえで、先生にも CC で送る。また計画的に進んでいなかったことが多々あり、よいスケジュールを立案することが大切だと思った。スケジュールを明確にすることで計画的に物事を進めることができると思った。

Ⅱ. どんぐり工作

1. 概要

どんぐり工作の講座は、一本杉公園みどりの会の佐藤氏を講師とし会の協力を得ながら継続して行っているものである。

講師の高齢化により一時は講座運営が中止になったが、学生の参加により復活することとなった。

身近な雑木林の秋の恵みを利用してどんぐ

り工作を行うことと、材料の集め方やどんぐりについても学ぶことを目的としている。

2. 活動内容と実績

今年度は来年度の活動に向けての材料集め（9/17 実施）などを一本杉公園みどりの会にご指導いただき、打ち合わせの回数も多く持つことができた。

講座参加受付は7/22より開始し、8/3には、受入れ予定数の10組20名に達した。これは例年課題となっていた「講座受講対象者」をこどもと親子に絞ったことによる成果である。

講座当日は、どんぐり工作に加え、クリスマスリース作りもできることから、親子連れや家族参加もあり、以前からの課題も解決することができた。

Ⅲ. ハロウィンワークショップ小枝クリップ

1. 概要

ハロウィンワークショップ（以下 WS と略す）は、新規の企画である。9月の講座「どんぐり工作」などの経験と梅澤ゼミの先輩がこれまで「こどもまつり」や諏訪・聖ヶ丘の夏祭りで行っていたウッドクラフト「小枝クリップ」を多摩市グリーンボランティア連絡会と連携して行うことになった。

2. 活動内容と実績

（1）事前準備

10/7・14に多摩市立 GLC で小枝の準備とマグネットシールのカットを行った。14日からは広東财经大学交換留学生3名が参加した。

（2）当日の活動

梅澤ゼミ6名（内交換留学生3名）、青陵中学校自然体験部8名、高等学校3名、計17名

の学生で受付、講師を行った。

ワークショップの開催時間は 14 時までの予定だったが、前日にハロウィン in 多摩センターのイベントであるトリックオアトリートが一段落したであろう午後から参加者が増えたこと、材料を多めに用意していたことから時間を延長し 14 時 35 分までの開催となった。

(3) 活動実績

予定人数は 50 名であったが、材料を多く用意していたので時間を延ばし 69 名まで受け付けた。イベント終了後も希望者が複数訪れるなど盛況であった。また、来場した大人から参加できないかという希望が複数寄せられた。2 年生が中心となって活動を行うことができた。中学校・高等学校・大学（含留学生）が連携して活動を行うことができたことは大きな成果である。

【参加者数】

時間	男/女	市内/市外	人数集計
10:55～12:30	8 / 17	10 / 15	25
12:35～13:40	8 / 17	5 / 20	25
13:45～14:34	2 / 17	11 / 8	19
合計	18 / 51	26 / 43	69

3. 外部評価

中・高・大学と連携したワークショップの開催について、学生スタッフそれぞれの感想として、交流を深めながら活動できたことが楽しかったと話があった。始めはそれぞれの立ち位置がわからないような部分も感じられたが、次第に役割がわかり WS の参加者が増えた午後にはスムーズに進められていた。

WS の内容について、小さな子どもでも 10 分程度で作成可能なクラフトだったのは、良かったと思う。今回のような雑木林の身近な樹木の枝で作成するクラフトで、少しでも身近なみど

りに興味関心をもってもらえたら嬉しいと思う。
(多摩 GV 連絡会事務局)

4. 反省点・課題

多摩大学と多摩市グリーンボランティア連絡会間での連絡をスムーズに行うことができなかった。中学生に指示をすることはできたが、各学校単位で固まってしまう積極的にコミュニケーションを取ることができなかった。

小枝クリップの作り方については説明することができたが、説明用資料の作成が遅れたこともあり、木の種類や特徴についてしっかりと伝えきることができなかった。

初めての 2 年生だけでの活動であったこともあり、反省点が目立つ結果となってしまった。来年からは他のプロジェクトも 2 年生が中心となって活動を行うため、今回の反省を忘れず、次の活動に活かしたい。

IV. 南鶴巻小学校 5 年生総合的学習「藍染め」

1. 概要

多摩 GV 連絡会事務局から南鶴巻小学校 5 年生が行っている総合的学習「藍染め」を手伝わないかという誘いを受け、参加することにした新規のプロジェクトである。

南鶴巻小学校 5 年生総合的学習の目的は、藍を育てる自然活動を実践し、生命を尊重する態度を育てるとともに、成長する喜びを味わわせ、活動意欲を向上させることである。

【南鶴巻小学校 5 年生総合的学習の流れ】

月	学習活動	
4	藍の種をまく	
5	水まき アブラムシ取り	藍について調べる。
6	水まき	藍について調べる。

7	藍の1番刈り	藍について 調べたことの発表会
8	藍の2番刈り (収穫)	
9	水まき	
10	水まき	展覧会
11		
12	藍染めチャレンジ	まとめ 振り返り
1		異学年へ藍染の紹介
2		異学年へ藍染の紹介
3		振り返り

※黄色は私たちが南鶴牧小学校の授業に参加したものの。

【活動内容】

月	活動	内容
5/11	第1回 打ち合わせ	藍染めプロジェクトの目的、 活動についての話し合い。
5/27	小学校での 活動	5年生と藍の葉を食べる アブラムシ取り
6/17	第2回 打ち合わせ	アブラムシ取りでの反省、 子供達の声をもとめた。
7/1	第3回 打ち合わせ	藍の歴史パネルの作成開始
7/22	第4回 打ち合わせ	藍の歴史パネルの作成②
8/10	第5回 打ち合わせ	藍の歴史パネルの作成③
8/19	第6回 打ち合わせ	藍の歴史パネルの完成
8/26	小学校での 活動	2番刈り 藍の葉を刈る作業

2. 今後の活動

12/15・16・19の3回1～4時間目に「藍染めチャレンジ」(手ぬぐいを使用して藍染め)を実施する。パネルを用いてPJメンバーが児童

に藍染の歴史文化についてのプレゼンテーションを行う予定である。また、1年間の活動記録パネルの制作を行う。

3. 活動から学んだこと・感想

以前より連携させていただいている高澤さんとこまめに連絡を取ることでスムーズな活動が出来た。さらに、打ち合わせの回数を多く持ち、内容の深い打ち合わせが出来た。

アブラムシ取り、2番刈りではPJメンバー同士で固まることが多かったこと、児童にもうまく溶け込めなかったことが反省点である。

また、自分たちから主体的に行動する事が出来なかったことも課題であるが、PJは活動途中なので改善していきたい。

謝辞

今年度も多くの皆さまのご支援により活動を継続することができました。多摩市立南鶴巻小学校5年児童・教職員の皆さま、多摩市立青陵中学校自然探検部の皆さま、高校生の皆さま、多摩市立グリーンライブセンター関係者の皆さま、そして多摩グリーンボランティア連絡会事務局の皆さま、一本杉公園みどりの会の皆さま、佐藤堅太郎さまに心より感謝を申し上げます。

湘南藤沢の再武装 ～観光振興による地域の課題解決～

報告者：森川和洋（3年）、荒井綺花（2年）、
米倉慎之助（2年）、高橋昇希（1年）

1. インターゼミ・サービスエンターテインメント班について

「インターゼミ・サービスエンターテインメント班」とは、寺島学長主宰インターゼミ（社会工学研究会）内の研究グループの一つであり、社会人、大学院生、両学部生が参加している。同グループの目的は、学生視点から地域の観光振興策に関し、文献研究とフィールドワークを通じて具体的提案を行い地域の課題解決に貢献することである。

2. サービスエンターテインメント班の歩み

- 2009 年度 「ウォルト・ディズニー、ディズニー社、東京ディズニーランド」
- 2010 年度 「ディズニー：ディズニーキャラクタービジネスの成功要因に関する考察」
「観光：マンガ・アニメ・ツーリズム」
- 2011 年度 「ディズニーにおける人材育成」
- 2012 年度 「ディズニー海外展開戦略」
- 2013 年度 「顧客・従業員満足度に関する考察～多摩大生が企業を選ぶ際に重要視すること～」
- 2014 年度 「日本を元気にする IR 和風 IR～対アジア・関西圏統合型リゾート構想～」
- 2015 年度 「訪日リピーターに日本の魅力を発信し日本通を育てるための SNS の利活用～沖縄観光と日本食文化を例として～」

3. 2016 年度 「湘南藤沢の再武装～観光振興による地域の課題解決～」

多摩大学湘南キャンパスにはグローバルスタディーズ学部がある。「ホスピタリティ・マネジメント」、すなわち観光に欠かせない「おもてなし」を教える明確な目的を持つ学部として、地域貢献できる優秀な人材を輩出してきた。2015 年 11 月、多摩大学と藤沢市、公益社団法人藤沢市観光協会の三者による観光連携協定が結ばれた。同協定は、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、セーリング競技の会場に選ばれた藤沢市の観光発展のため、三者間の連携協力関係を強化し観光振興という視点から、湘南藤沢地域を訪れる海外からのお客様に対するおもてなしを推し進めることを目的としている。

こうした背景のもと、2016 年度のインターゼミ・サービスエンターテインメント班は「湘南藤沢の再武装～観光振興による地域の課題解決～」を研究テーマとして掲げ、これまでの文献調査とフィールドワークを通じて、以下のような問題意識をもって課題解決のための具体的な提案を行う。

（1）湘南藤沢の解決すべき課題

- ・日帰り観光地という位置付け、宿泊施設不足
- ・交通渋滞、観光客の飽和状態

- ・ブランド力不足
- ・鎌倉に来ている欧米人観光客を取り込みたい。

(2) 上記課題を解決するための方策

①湘南藤沢の強みを活かす

・2018W 杯から、4 年連続の世界的大会の開催

・産業、観光、歴史、大学、市民の潜在力

②ターゲット

メイン：欧米富裕層 サブ：欧米志向のアジア富裕層

③ニーズの把握

・自然、景勝地観光
・日本の歴史・伝統文化体験

・アジア諸国（特に中華圏） 「モノ」→「コト」へ

(3) 目標：ブランドの確立、課題解決

①エキゾチックでギラギラした JAPAN（裏テーマ：郷ひろみ）

<コンテンツ>

・東海道の宿場町 ・信仰の地 ・精進落としての地

<課題解決の手段>

・大島航路の利用 ・湘南港沖ヘクルーズ招致

上記手段によって欧米人観光客の取り込み、宿泊問題、交通渋滞問題の緩和などの問題解決を図る。

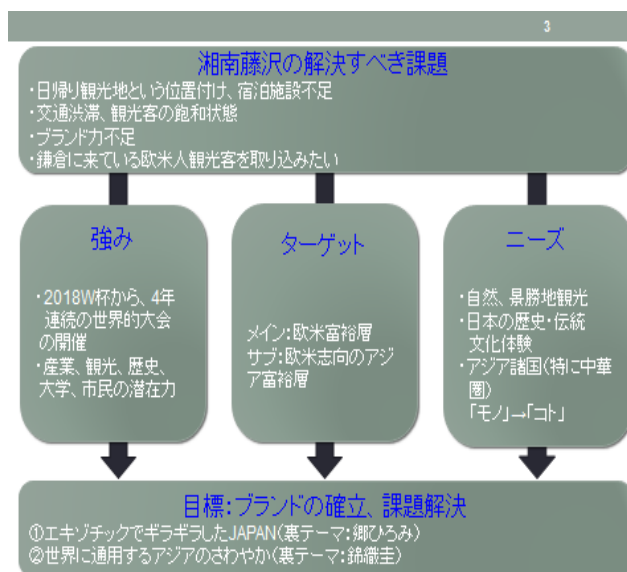
②世界に通用するアジアのさわやか（裏テーマ：錦織圭）

<コンテンツ>

・横のりスポーツ（サーフィン、スケボ） ・「エコ」 公害克服、相模湾の生物多様性

<課題解決の手段>

・国際大会の招致・開催 ・スポーツ・ツーリズム人材の育成・活用・スポーツ用品産業の巻き込みを推進し、上記手段によって湘南藤沢のブランド形成を図る。



以上

B-10 「眠り」で多摩地域を元気にする！～（株）エムールとの共同研究プロジェクト

2016 年度プレゼミ II 07 クラス（指導教員 酒井麻衣子）

1. プロジェクトの概要

多摩大学 1 年生の必修科目である「プレゼミ」は、一クラス 10 数名からなる少人数クラスです。『ゼミカルの多摩大学』では 2 年生時にその後 3 年間所属するホームゼミを選択しますが、プレゼミはそれに先立ち“ゼミ形式の学び”を体感する場となっています。

2016 年度プレゼミ 07 クラスの 15 名は、多摩地域の活性化を目的として、多摩地域企業との共同研究プロジェクトに取り組みました。

<テーマ> 「眠り」で多摩地域を元気にする！

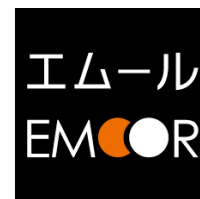
株式会社エムール（<http://emoor.co.jp/>）様との共同研究

EMOOR vision

“眠りで世界の人を元気にする”

“世界で最も多くの人を幸せにし、愛される寝具ブランドを創る”

“布団をもっと楽しくかつこよく。そして、毎日の暮らしに感動を！”



<内容>

株式会社エムールとともに、多摩地域の「健幸」を促進する施策（サービス・商品開発）を考える。

※健幸都市（スマートウェルネスシティ）とは < 参考 URL : <http://www.swc.jp/> >

『身体面での健康だけでなく、それぞれに生きがいを感じ、安全・安心に暮らすことができ、子育て中であっても、障害があっても子どもから高齢者まで、だれもが幸せを実感できるまち』（多摩市ホームページより）

※健幸まちづくりプロジェクトとは

< 参考資料 : <http://www.tama.ac.jp/topics/news/2016/07/26/project01.pdf> >

多摩市・株式会社ファンケルヘルスサイエンス・多摩大学による産官学連携の研究プロジェクト。

<体制>

3 チーム（各 5 名）※酒井ゼミ 2 年生の TA（ティーチングアシスタント）は各チームに 3 名

<スケジュール>

- ・第 2 講（10/5）：二次情報の探索、理解
- ・第 3 講（10/12）～第 7 講（11/9）：グループワーク、成果のポスター作製
- ・第 8・9 講：多摩祭（11/12・13）でのポスター展示、来場者への説明
- ・第 10 講（11/16）・第 12 講（11/30）・第 13 講（12/7）：AL 発表祭用 PPT 作成、プレゼン練習
- ・第 14 講：多摩大アクティブ・ラーニング発表祭（12/10）でのプレゼンテーション・ポスター展示
- ・第 15 講（12/14）：総括

<各チームの研究テーマ>

A 班：都心から遠いベッドタウンに住む働き盛り世代に質の良い睡眠を提供する商品

B 班：「健幸まちづくりプロジェクト」における「眠り」の重要性の促進施策

C 班：「健幸まちづくりプロジェクト」における少子化対策サービス

★研究結果の概要については AL 発表祭でのプレゼンテーションで報告いたします。

各チームの研究の詳細についてはアゴラに掲示されたポスターをぜひご覧ください★

MEMO

B-11 開放特許ライセンスを活用したビジネスプラン創出プロジェクト

松本祐一ゼミ

1. メンバー

多摩大学経営情報学部3年

所耕士郎、西久保隼人、島本海央

2. パートナー（プロジェクト参加者）

富士通株式会社

多摩信用金庫

株式会社菊池製作所

明星大学佐々木ゼミ

3. 目的

富士通株式会社の所有する休眠状態にある特許と学生の柔軟な発想を結び付け、地域企業による新製品・新サービスの開発につなげることで、マッチングの制度を高め、地域活性化を図る。

学生にとっては新しいことを考えたり人前で発表したり机上では学べない実践的な学習の機会を得ることができる。

4. 活動内容

「富士通所有の特許」

- ①証明光へのコード埋め込み技術
- ②視線検出技術
- ③行動状態検知技術
- ④方向誘導技術
- ⑤温度差発電技術
- ⑥広告関連技術

以上の技術の中から一つを選びそれを使いどんな製品やサービスを作るか、どこに向けてどう売するかを考える。そして、実際に資料を作成して中小企業向けや大会でプレゼンテーションを行う。

5. 結果

- ⑥の広告関連技術を選択し、オリンピックに向け訪日外国人をターゲットとした地下鉄

での道案内サービスを考えた。まず訪日外国人が日本に来て困っていることをリサーチしたところ、地下鉄に関しての問題が多かったのでそれを解決するためのサービスを開発することにした。その概要は地下鉄の各所にモニターを設置しその前に立った人物に合わせたオンリーワンの情報をモニターに映し出し提供するというサービスである。

6. 成果

最初に菊池製作所に発表をしたところ、偶然にも似たようなサービスを開発しているという事実があり非常に共感を持ってもらうことができた。

多摩地区大会では、自分たちの考えをきちんと伝えることができたが、残念ながら全国大会に進出することはできなかった。

7. 課題

今回このプロジェクトを行いフィールドワークや留学生へのインタビューなど、行動に移すのが毎回遅くなってしまった。



多摩地区大会での様子

タイトル「熱海活性化プロジェクト」

ゼミ：中庭ゼミ創造的観光まちづくり研究会

発表者名：石崎貴之、石橋直樹、伊勢涼太、天羽正恵、太田有香、佐々木隆昭、中井洸太
林田維誠、本田理起、元村亮、横堀巧

PPT各ページタイトル

- 1、熱海活性化プロジェクト
- 2、基本情報
- 3、熱海の問題点
- 4、①情報発信
- 5、②まちの人の把握力
- 6、③宿泊施設の一体化
- 7、④夜のまちの賑わい
- 8、熱海の観光資源「食」
- 9、A－PLUSとは？
- 10、熱海の観光資源「体験する・遊ぶ」
- 11、熱海の観光資源「買う」
- 12、熱海のこれまでの現象
- 13、現在の熱海
- 14、プログラム提案
- 15、プログラム提案①
- 16、プログラム提案②
- 17、実行するにあたってのメリット
- 18、まとめ

MEMO

平成 28（2016）年度多摩大学経営情報学部アクティブラーニング発表祭配布資料

発表番号 C-2 みんなの食卓プロジェクト 2016

多摩大学経営情報学部梅澤ホームゼミナール 3 年

三浦歌恵 宮崎萌子

今年度の活動成果実績

- ・今年度の活動参加人数はのべ 204 名（大人：120 名、こども：84 名）となり、多くの方々が世代間交流を行うことができた。
- ・各小学校、コミュニティセンター内外掲示板などでのポスター掲示や「ひじり CAN」等を通じての情報発信により、毎回新たな参加者を得ることができた。
- ・ご夫妻での参加があった。
- ・第 12 回についてはひじり館まつりの近隣交流七輪にてチラシを配布してもらった。
- ・名前シールを導入したことにより、こどもたちが自分で握ったおにぎりの食べることで、おいしさを知る機会を作ることができた。
- ・ポスターの背景をカラーにすることで目に留めやすくした。

1. 本プロジェクトの経緯・目的

（1）経緯

聖ヶ丘商店街、聖ヶ丘コミュニティセンター（通称ひじり館）、連光寺・聖ヶ丘地区における梅澤ゼミの活動は 2010 年度「多摩うどんぼんぼこ・聖ヶ丘商店街の課題解決プロジェクト」から始まった。2012 年度からは「近隣交流七輪プロジェクト」がそれまで活動を行っていた諏訪名店街夏祭りに加え、ひじり館の夏・秋 2 回のまつりに参加し現在も継続して活動を行っている。

2 年前、「多摩うどんぼんぼこ・聖ヶ丘商店街の課題解決プロジェクト」のメンバーが、

連光寺・聖ヶ丘地区や聖ヶ丘商店街の歴史についてひじり館運営協議会会長にインタビューを実施した。その際、少子高齢化と核家族が多いこの地域では世代間交流の機会が少ないこと、ひじり館では館内を利用するこどもたちと高齢者との関係がよくないという話を伺った。その時、当時の会長から「梅澤ゼミで何か世代間交流の企画を考えてくれないか。」と依頼を受け、「世代間交流 習字で交流を図ろう！」を実施した。これらの活動がひじり館運営協議会総務部長兼多摩市食育ネットワーク推進連絡協議会委員の目に止まり、「食をテーマに世代間交流が出来ないか。」との依頼を受けた。当時の 4 年生が「諏訪小学校菜園プロジェクト」の経験をもとに「みんなの食卓プロジェクト」を企画・提案し、ひじり館協力のもと青少年問題協議会連光寺・聖ヶ丘地区委員会、地域の有志と梅澤ゼミが活動を開始した。ひじり館と青少年問題協議会連光寺・聖ヶ丘地区委員会は以前より一緒に活動を行いたいと思っていたがなかなか実現に至らず、ひじり館 20 年の歴史の中で初めて連携が実現した。このことを関係者の皆さまは大変喜んでくれている。

（2）目的

近年、高齢者が自宅に引きこもりがちであることから外出する機会が減少傾向にある。そこで、自宅に引きこもりがちな高齢者と地域のこどもたちが共に食事をする事で世代間での交流が少しでも図れるのではないかと

考えた。高齢者にとっては交流・情報共有の場になり、子どもたちにとっては食事時のコミュニケーションが取れる場が提供できる。また、高齢者と話すことによって子どもたちの自発的コミュニケーション能力が養われることができるのではないかと考える。一緒に食事をする事で「共食」ができ高齢者と子どもたちの「孤食」を防ぐことが当初の目的であった。しかし、活動を重ねていくうちに高齢者と子どもだけでなく、大学生や子どもたちの保護者など幅広い世代の人たちが自然に関わっていることに気が付いた。

2. やってきたこと

聖ヶ丘小学校で 15 年にわたって農園活動の指導を行っている相馬さんから毎回お米や野菜に関するお話をいただいている。子どもたちには少し難しいが、大学生、大人たちには人気である。

高齢者は児童に向けてお米の大切さ、お米のおいしさを伝えてくれている。

自分たちでお米をとき、炊き、握り、参加している全員で交流しながら食べることでお米本来のおいしさを感じてもらおうと共に、普段関わることのない世代間交流を促進した。

ポスターやひじり館の広告（CAN）で地域に宣伝した。

3. 活動を通して発見したこと

第 1 に、誰かが中心となって物事を進めるのではなく、PJ 関係者がそれぞれを思いやって動いていくことでプロジェクトが成り立っていく。プロセスパラダイムである。

第 2 に、会に参加する大人たちからは、お金を頂くのではなく、お米一合(気持ち)を持ち寄ってもらっているのだということである。

人と交流しながら自分の握ったおにぎりを食べることで、普段と雰囲気が違いよりおい

しく感じる。

5. 活動を通して学んだこと、得られたこと

高齢者の孤食を防ぐことは現実的に難しい。だが、回数を重ねていくごとに児童の食育推進や多世代交流をはかる場になった。

ポスターや広告により、毎回新しい参加者を得ることができた。

6. 次年度の課題

- ・これからもまだ参加していない多くの方々呼びかけ、活動に参加してもらいたい。
そのための方法を検討する必要がある。
- ・おにぎりにはこだわりたいが、イベントのマンネリ化を避けるために、カレーや海苔巻などおにぎりを握ること以外の企画をはさむことを考え発展させる。

7. 外部評価

現 3 年生とのお付き合いは 2 年、9 回です。この 2 年間でだいぶ成長しました。責任感が強くなった。自分のやるべきことを理解するようになった。小学生とのやりとりを楽しんでいる。司会進行が上手になった。自分たちで考えた質問コーナーは、次年度に活かせる内容でよかった。おにぎりのことを人に説明したいという気持ちや、打ち合わせで大人たちと自然に話ができるようになったことに感謝し、嬉しくなりました。

8. 謝辞

今年度の本プロジェクトの活動を行うにあたってご協力いただきました、聖ヶ丘コミュニティセンター運営協議会の皆様、多摩市青少年問題協議会連光寺・聖ヶ丘地区委員会の皆様、聖ヶ丘小学校・連光寺小学校の副校長先生、教職員、保護者の皆様、に心より感謝申し上げます。

平成 28 (2016) 年度多摩大学経営情報学部 AL 発表祭配布資料

発表番号 C-3 近隣交流七輪プロジェクト 2016

多摩大学経営情報学部梅澤ホームゼミナール

渡邊大河・藤井駿・鈴木俊太・栗原紗莉亜・中村有梨沙 (3 年)

新垣ジョシュア・佐々木真人・福崎潮音 (2 年)

まとめ：今年度の活動実績

- * こども夏まつりでは実行委員会からの要請を受け、プレイルームにてこどもたちのための迷路コーナー「GOGO! ひじりトンネル」を企画・運営した。
- * 迷路は 2 日間で 470 名のこどもたち楽しんでもらうことができた。
- * 近隣交流七輪は、食材を渡しお客様自身で焼く、持ち込みも可の仕組みである。自ら焼いてもらうことでお客様同士の交流を促進することができた。
- * 11 月の「ひじり館祭り」、秋の食材として秋刀魚・焼きおにぎりを提供することで、七輪で焼く秋刀魚を堪能してもらうことができた。
- * 継続することを第一に考えつつ、毎年新しい取り組みを試みに挑戦し展開を続けている。
- * こども夏祭り・ひじり館祭り共に実行委員会にはプロジェクトメンバーが交代ですべて出席した。準備段階から関わり学ぶことが出来た。

1. 近隣交流七輪の目的

七輪は木炭や豆炭を利用する調理用の炉である。軽量、コンパクトで持ち運びが容易であり、ガスや電気を使用する必要がない。そのため自然災害等でライフラインが使用不可能となった時には、湯を沸かす、調理する、暖をとるなど活用範囲が広い。

近隣交流七輪の目的の第 1 は、七輪という小さな円形の炉を囲み、食材を焼きながら、さまざまな世代の近隣住民やこどもたちと交流をしてもらうことである。第 2 は、災害時に活用範囲が広い七輪を日常生活の中で楽しく使用し慣れておくことで災害時に速やかに使用できるようになれば考えている。

さらに、毎年様々な新しい取り組みに試み新しい展開を続けている。

2. 今年度の活動

(1) ひじり館こども夏まつり 2016

2016 年 8 月 20 日 (土)、21 日 (日)
今年度のひじり館こども夏まつりでは、近隣交流七輪の他に、こどもたちを対象とした「GOGO! ひじりトンネル」という迷路を企画・運営した。段ボールを使用したトンネル迷路は、天真爛漫なこどもたちに気に入られ、よい遊び場となり 470 名の子供たちに参加していただくことができた。

近隣交流七輪については昨年の反省である「販売重視にならないように。交流第一。」を心がけた。受付で食材を渡し、七輪で学生や地域の方々と交流していただけるように工夫を凝らした。

(2) ひじり館まつり 2016

2016 年 11 月 5 日 (土)、6 日 (日)
今年度のひじり館こどもまつりは晴天に恵まれ、両日ともに開催することができた。今年は季節に合わせて「七輪で秋刀魚を焼

く」ことを味わってもらえるように工夫を凝らした。大根おろし、たくあんを用意。醤油にもこだわり、塩は日本の塩とゲランドの塩を用意した。

3. 振り返り

実行委員会の会議にはすべて出席することができた。また、夏まつりでは新規の迷路を大成功に収めることができた。迷路は初めての試みで不安があったが、事前準備から丁寧に行うことができたので、当日の盛況につながった。

ひじり館まつり 2016 では秋ならではの食材をお客様に提供するというので、秋を楽しんでもらえるよう工夫を凝らした。

ひじり館まつりは、例年 2 年生が中心となって運営することになっている。来年度に向けての課題を見つけることができた。

4. 成果・課題

(1) ひじり館こども夏まつり 2016

〈成果〉

新規の「GOGO! ひじりトンネル」では多くの子供たちに遊んでもらうことが出来た。2 日間通して 470 人の来場者が利用した。

近隣交流七輪では受付で食材をお客様に渡すという仕組みを行うことで利用者が減るのではないかと不安があったが、フランクフルト以外の全食材を売り切ることができた。さらに七輪のブースも学生・子供・大人間の会話が弾んでおりとても賑わっていた。

〈課題〉

事前にチラシを配ることで私たちが行っている七輪の目的やシステムを理解してもらえ工夫をするべきであった。

新しい企画を行うにあたって前例を調べるや情報を集めるなどもっと事前準備を積極的に進めればよりよくなったのではないかな。

(2) ひじり館まつり 2016

〈成果〉

2 年生にとっては初めて自分たちが主体で運営する活動だったのでうまくいかないことも多々あったが、目標としていた食材は商品はすべて完売することができた。来年度自分たちが回していくプロジェクトの本質を肌で実感することが出来たので次の活動に向けてよい経験を得られたのではないだろうか。

〈課題〉

事前準備が怠っていたので、もっと事前準備から当日のことを考え効率よくプロジェクトを回すようにする。

報告・連絡・相談がうまくいき通っておらず PJ メンバー外にも余裕をもって連絡できるようにする。

5. 外部評価

(1) 夏まつり総評

昨年度も新たな催し物『らくがきコーナー』を多摩大学梅澤ゼミに担当していただき大成功でした。マンネリ化の打開策として、新しい企画を若い人に担当していただきたいと感じました。七輪では運営協議会のメンバーも数名参加させていただきました。好感の持てる接客態度で臨んでおられました。

(2) ひじり館まつり 2016 総評

今年は秋にふさわしいメニューとして秋刀魚と焼きおにぎりを販売されておりました。行列ができるほど盛況でした。新しい企画に積極的に挑戦されているのを拝見して素晴らしいことだと思いました。片づけ作業もお手伝いをいただきありがとうございました。

謝辞

ご指導ご協力いただきお世話になりましたひじり館運営協議会の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

地方再生班

雇用安心循環モデルを活用した 地域再生への提案

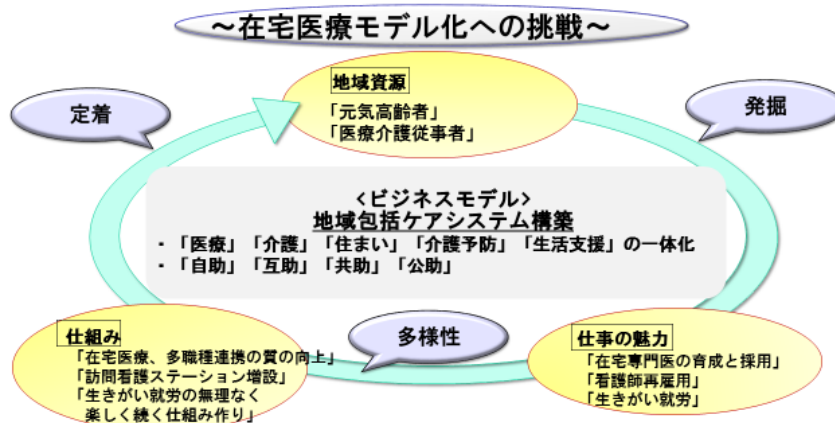
4年 村木 一美
3年 佐藤 朱音
濱島 健吾
二宮 悠輝
2年 中村 恒太
院生 伊藤 幹夫
星野 一也
OB 川合 紀子

1

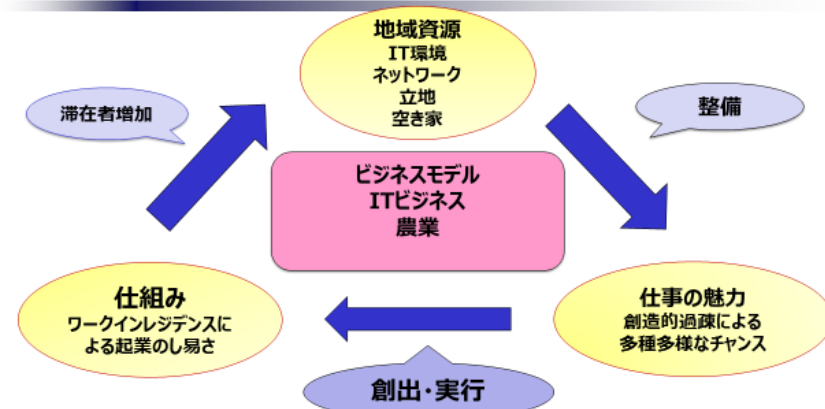
仮説循環図「道の駅 とみうら」



「柏市地域包括ケアシステム」仮説循環図



神山町



6

ライフステージ比較

	就学	就職	結婚	出産	子育て	定年	介護・医療	死去
神山	課題	教育環境	就職先		育児環境	いきがい	交通利便性	
	支援	最新機器や最先端ITによるグレイティブな教育環境	起業しやすい環境 サテライトオフィス クリエイティブ職		・職住近接の安心感 ・自然の中での生活	新たな仕事創出 フードハブプロジェクトによる農業支援	町外の医療機関へのアクセスは便利	
柏市	課題	雇用対策	若い世代の定住	育児環境	育児環境	生きがい探求	介護・医療 難民	孤独死
	支援	・医療介護人材の期待に応える環境作り ・付加価値の高い産業の誘致	地域資源を活用した販路の創出	妊娠から子育てまでの総合的支援	子育て関連施設の充実	生きがい就労の機会マッチング	在宅医療・介護の仕組み等の地域包括ケアシステムのプランド構築	地域での見守り活動と在宅看取りの推進
南房総	課題	教育環境	進学による流出	後継者問題	女性就労	いきがい	医療機関	
	支援	パートタイムの積極的採用		農業・漁業と道の駅運営の両立	女性の働き口確保 担い手の支援	働き口確保・生きがい支援	元気高齢者の働き口	

まとめ

地方創生はその地域の産業(ビジネスモデル)を活かし、利益を上げるものでなければならない。

↓
そのビジネスモデルを循環させるため利益を分配する必要がある。それによりその地域特有の創生法が見えてくる。

↓
少子高齢化・人口減少が続ける社会では、人々のキャリアデザインを多様化させるべきである。

↓
地域の特性のライフステージを見える化する必要がある。

経済循環を意識した創生法が
人口減少社会で有効である。

C-5 ALプログラム 第5回 多摩「志」企業探検バスツアー参加報告

1. 目的

本プログラムは、旺盛な採用意欲があるものの有効な採用ルートを開拓しきれていない多摩地域の中堅・中小企業と、いまだ大手・安定志向が強く、就職活動の情報源を就活サイトに頼り、自らの就職先として地元中堅・中小企業に目を向ける機会が少ない同地域に通う大学生との有効なマッチングを目的として、多摩信用金庫の協力のもと実施されるバスツアーで、今年度で5回目を迎えました。

2. プログラム内容

1日をかけて3社を回り、1社あたり2時間程度を割くプログラムで、単なる会社見学とは異なり、社長や経営層の志を直接伺い、若手社員との懇談も行います。それにより、本格的な就職活動を目前に控えながらもまだ心構えの不十分な3年生にとって、社会に出て働くということの意味を体感し、中堅・中小企業の魅力と可能性に気づくきっかけとなる内容となっているのが特長です。

さらに今年度は、「アクティブ・ラーニング実践」科目として認定され、バスツアーの後も含め、以下のような活動に取り組み、提出課題が一定の水準で評価された学生は単位認定されるプログラムです。

- ① 事前講習会：10月11日（火）
- ② 業界・企業研究、質問項目の作成
- ③ 企業研究発表会：10月27日（木）
- ④ バスツアー：11月14日（月）
- ⑤ 参加レポート・企業紹介ポスターの作製
- ⑥ AL発表祭の発表準備（発表資料作成、プレゼン練習等）
- ⑦ AL発表祭での発表：12月10日（土）

3. バスツアー実施概要

＜実施日時＞2016年11月14日（月）9：00～19：00

＜参加学生数＞11名

＜訪問企業＞（訪問順）

- ① 交通システム電機（株）様：立川市、メーカー（交通システムの開発・製造・保守）
<http://www.tsec.co.jp/index.php>
- ② FSX（株）（旧藤波タオルサービス）様：国立市、サービス（おしぼりレンタル・販売）
<http://www.fujinami.co.jp/>
- ③ （株）三幸社様：八王子市、メーカー（業務用クリーニング機械）
<http://sankosha-mfg.com/>

★バスツアー当日の様子、学生の学びについては、AL発表祭でのプレゼンテーションで報告いたします。アゴラに掲示された企業紹介ポスターもぜひご覧ください★

MEMO

ゲームを利用した就職における業界知識獲得支援

阿武省吾(21411017sa@tama.ac.jp)

1. はじめに

本研究は、就職を控えた大学生が自分の知らない業界の仕事内容を理解することを可能とするシリアスゲームを制作することを目的とする。働いてお金を稼ぎたいが、やりたい仕事がない・入りたい業界がない人は、自分の知っている範囲に面白い仕事がないだけであり、知らない仕事・業界の仕事内容を理解して面白いものを見つけられれば、その人は「働く」ということに興味を持つようになると考えた。就職活動において、学生が重視する情報を、大学3年生2人、大学4年生2人に調査したところ、「仕事内容」を重視する学生が最も多かったため(図1)、この項目を伝えることをゲームの目的とした。

	4年1人目	4年2人目	3年1人目	3年生2人目
仕事内容	1	2	1	1
やりがい	2	1	3	
年収				
休みの数	3			2
業界の大きさ				
有形、無形				
向き、不向き		2	2	3

図1、重視する情報

2. 既存研究

同じゼミのOBの江間宏路さんが、就職活動の研究をしていた。類似の既存研究として、就職活動疑似体験カードゲームがある[1]。この研究では、「面接で1回落ちただけで気落ちして前に進めない学生に、就職活動は落ちるのが当たり前」と教えてくれるものである。このゲームでは、カードを使って自分のステータスをあげていく。

BOSS(面接官)の面接を受けて、勝つと内定が貰えて、負けても、ステータスが上がる。面接官に負けるのが当たり前というところが、現実の就職活動を表している。

これに対し、本研究では、秘匿仕事内容の知識を与えることを目的とする。

3. ゲームシステム1(カルタ)

Wikipediaの「カードゲーム」の項目[2]から、「誰にでも分かりやすい」、「業界を知っていると有利になる」という条件に基づき、ゲームを検討した。この中からカルタを題材として、テストプレイができるところまでゲームを作成した(図1、図2)。絵札(図2)にはフリー素材の画像を使用した[3]。

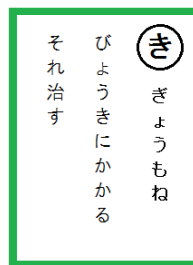


図2：読み札



図3：絵札

大学生4名、社会人3名、教員1名テストプレイを行った。その結果、以下の長所と課題が明らかとなった。

長所

- ・ 誰でもルールをすぐに覚えられて、ゲームを楽しめる。
- ・ 複数回プレイすることによって、初めて見る業界(札)を覚えられた。

課題

- ・ カルタは、札に書いてあることしか伝えられず、伝えられる情報量が少ない。
- ・ カルタを遊んだプレイヤーが仕事・業界に興味を持ってない。

このことから、「仕事のやりがい」を伝えるという目的が達成できないと判断した。

4. ゲームシステム2 (テーブルトーク RPG)

カルタの条件に加えて「提示できる情報量が多い」「キャラクター作成がある」という条件に基づき、TRPG (テーブルトーク RPG) のゲームシステムを採用した。

4.1 ゲームルール

- ・ プレイヤー2人～4人
- ・ ゲームを管理するキーパーが1人
- ・ プレイヤー同士が協力をして、就職を目指す。
- ・ 探索して、企業、業界の情報(仕事内容)を集めて、就活を有利に進めていく。
- ・ 情報を集めたら、BOSS に面接を挑む。面接をクリアして内定が貰えるとゲームクリア。
- ・ ゲームクリアは内定を貰うことだが、エンディングは複数あって、起業する、親の会社を継ぐなど、内定以外の終わり方もある。
- ・ 不合格だった場合は、ニートや就活続行というエンディングになる。

4.2 ゲームの流れ

1. キャラクター作成

キャラクターを作る。エンディングまではこのキャラを使って、就職活動をする。

2. 探索パート

業界・企業の情報(仕事内容)を集める。情

報を集めることによって、面接の有利不利が決まる。

3. 面接

集めた情報を武器に面接を受ける。面接の結果でエンディングが変化する。

4. エンディング

ボスとの戦いに勝利していると内定を手に入れられ、戦いに負けると、企業する、親の会社を継ぐ、ニートなど就職以外のエンディングを迎える。

TRPG で業界知識を獲得させる利点は、シミュレーターのように就職活動を再現することができて、プレイヤーが楽しく学習できる点にある。加えて、TRPG は会話が重要なゲームであるため、就職活動中に必要となるコミュニケーション能力を自然と身につけることができる。

一方、業界知識を得るプロセスの実現方法や、ゲーム管理者の技能・知識への依存が、このシステムの課題である。

5. 現状と期待される成果

現状は、テストプレイを目標にゲームを制作している段階だが、問題点が見つかったので、別のゲームシステムも考えている。

このようなゲームによって、様々な職種の仕事内容の理解が深まり、就職活動に役立つことが期待できる。

【参考文献】

- [1]<http://iis.edu.tama.ac.jp/src13s/files/929.pdf> 就職活動疑似体験カードゲーム
- [2]<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A1%E3%83%BC%89%B2%A0> カードゲーム - Wikipedia
- [3] <https://pro.foto.ne.jp/> pro.fot

中庭ゼミ サードプレイス班

～日本におけるサードプレイスの実態調査～

3年 松野太亮

2年 西鎮輝 中村竜也 澤田和希 大久保諄也

発表事項

1. サードプレイスとは
2. 海外におけるサードプレイス
3. なぜサードプレイスなのか
4. 研究テーマ（日本におけるサードプレイス）
5. 事例調査
6. 私たちが考案するサードプレイス

MEMO

C-8 奥多摩特産「治助芋」商品開発プロジェクト

松本祐一ゼミ

1. メンバー

多摩大学経営情報学部 3 年

島本海央、鈴木翔太、鈴木幹生、富樫優輝、長島熙海、古橋湧太

2. パートナー

NPO法人奥多摩カヌーセンター

おくたま海沢ふれあい農園

3. 目的

NPO法人奥多摩カヌーセンターの方から奥多摩にしかない治助芋を使った商品開発の依頼があり、そのじゃがいもの商品開発を通じて地域活性化を目指した。

まず、私たちは奥多摩について事前調査をするうちに数々の問題点を見つけた。奥多摩町は少子化高齢化で人口が減少し、魅力的な仕事場がない、特産品が若者受けしないという問題がある。しかし、奥多摩には豊かな自然がありアウトドアにくる人は沢山いる。したがって、それを活かして地域活性化をしようと考えた。

4. 活動内容

実際に奥多摩に行き治助芋の苗植えを行った。その後、奥多摩がどのような地域なのかを調査を行い、その治助芋を使った商品を企画した。私たちは奥多摩にはアウトドアにくる人が多いので治助芋を使ったお弁当、気楽に食べられる治助芋を使ったおやつを考えた。

お弁当は容器のデザインにこだわり、持ち運びを便利にすることと、中身は奥多摩の特産品を味わってもらうことをメインに考え、おやつは登山をする人におすすめされているクッキーやドーナツ治助芋を使ってできないかを考えた。最後に、治助芋を収穫しにいき、そこで奥多摩の人々との交流を深めると同時にこの企画を発表した。

5. 結果

奥多摩で私たちの考えた商品開発を発表して、奥多摩の人々や奥多摩カヌーセンターの人たち、おくたま海沢ふれあい農園の人たちに聞いてもらいそこから数々の意見をもらった

6. 成果

収穫した治助芋をゼミの2年生が多摩祭でジャガバターとして販売し、完売した。同時にアンケートを実施し、その評価を得た。

7. 課題

短時間で商品開発や地域活性化ができることではないので私たちの代から次の代へとうまく引き継いでいくことである。そして、このプロジェクトが奥多摩の地域活性化につながる事が最終目的である。



治助芋の苗植えと収穫の様子

C-9 「多摩祭野外イベントプロジェクト」概要

松本祐一ゼミ

① プロジェクト名

松本ゼミ学祭プロジェクト 「JAGA バー」

② メンバーとパートナー

- メンバー【松本ゼミ 2 年生】
伊槻裕紀、阿部慎吾、安藤朗人、金田直樹、佐藤頼、鈴木啓史、長塚一馬
- パートナー
小山商店、石川酒造、TOYODABEER、VERTERE、NPO 法人奥多摩カヌーセンター、LIFECamping（小室大氏）

③ 目的

多摩のお酒や食材を使って多摩祭に出店し、「地域の人たちとつながる憩いの場」を提供する。

④ 活動（研究）内容

- 概要
多摩祭を盛り上げ、多摩地域のお酒や食材を PR するため、じゃがバターや地ビールなどを提供する「JAGA バー」を出店した。
- 多摩地域の特産品を提供
メニューに使う地ビールや食材は多摩地域の様々な団体と提携し、地ビールは「多摩の恵」、「TOYODABEER」、「R-IPA」、「Mikate session」。じゃがバターに使ったじゃがいもはゼミ生が植えて収穫した「治助芋」を使用した。
- アウトドア空間の演出
出店場所は多摩大学の芝生でテントを設営して行い、アウトドアでお酒やじゃがバターが楽しめる場を提供。他の地域系ゼミとも連携し、複数の出店で芝生の空間を共有した。
- 広報
多摩大学内とその近辺、ゼミ生の母校でチラシを配布した。
- アンケートを実施
出店の感想やじゃがバターに使用した「治助芋」の味の感想などをアンケートで集計した。

⑤ 結果

多摩祭 2 日間で地ビールとじゃがバターは完売した。他のメニューの売り上げも好調だった。結果として 3 万円以上の利益がでた。

⑥ 成果と課題

● 成果

「JAGA バー」の出店を通して、多摩祭にてアウトドア空間での憩いの場を提供することができた。また、メニューに使用した多摩地域の地ビールや治助芋を来店者の方に味わってもらえた。

● 課題

- ✓ 「地域でつながる憩いの場」というコンセプトの確定が遅くなり、コンセプトを軸とした企画運営が完全にできなかった。
- ✓ チラシの作成・配布が遅くなったため、チラシがきっかけでの来店が少なかった。
- ✓ 出店の運営ではメニュー提供の回転率を上げる工夫が必要であることが分かった。



会場の風景

シリアスゲームによる企業経営学習支援

下江雄也 (21311154ys@tama.ac.jp)

[1]はじめに

近年「シリアスゲーム」が注目を集めている。これは通常のエンターテインメント性のみを目的としたゲームと違い、教育や医療など、社会的に効果のあるゲームのことである。多摩大学でも経営基礎Ⅱという科目で、「TAMABG」というシリアスゲームを取り入れている。

「TAMABG」では、ユーザーは企業と消費者の両方を兼ね、企業としては商品の名前や売り出す価格、商品の特性などを決めて売り、消費者としては他ユーザーが出した商品や自分が出した商品を買ひ、商品についているポイントを集める。消費者として使えるお金は主に自分の企業からの給与であるため、自身の企業を成長させ自由に使えるお金を増やしていくことが基本になる。

企業では1期ごとに1種類の商品を作り、売りに出すことができる。この売り出した商品にかかったコストや売れた商品を貸借対照表などの財務諸表が出力される。(図1)

企業個別勘定

項目	貸借対照表		期中取引		損益計算書		期末貸借対照表	
	資産	負債・純資産	勘方	貸方	勘方	収益	資産	負債・純資産
現金	0		10,000	1,280			8,720	
製品	0		0	0	0		0	
固定資産	0		800	80			720	
借入金		0	0	0				0
資本金		0		10,000				10,000
売上高				0	0	0		
販売原価				0	0			
給与				200		200		
経理管理費				70		70		
研究開発費				70		70		
製品改良費				70		70		
販売促進費				70		70		
広告宣伝費				0		0		
パナー宣伝費				0		0		
減価償却費				80		80		
支払利息				0		0		
繰上資産評価損				0		0		
固定資産売却損				0		0		
税金				0		0		
期首剰余金			0					
当期純利益						-560		
配当				0		0		
期末剰余金								-560
合計	0	0	11360	11360	0	0	9440	9440

(図1 財務諸表の一部)

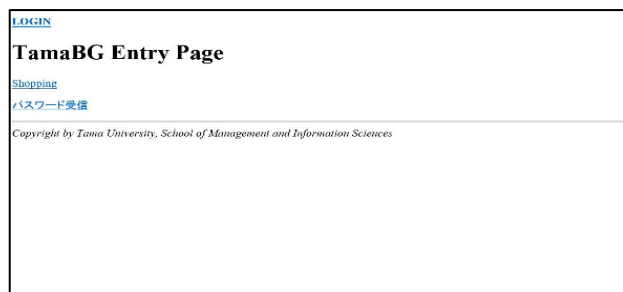
[2]目的

本研究では、シリアスゲームのデザイン・機能を変えることによる学習意欲の向上させることを目的とする。シリアスゲームは「TAMABG」を用いて行う。筆者は、2014年に受講者としてこのシステムを体験した。現在のこのシステムの課題は、以下の3点である。

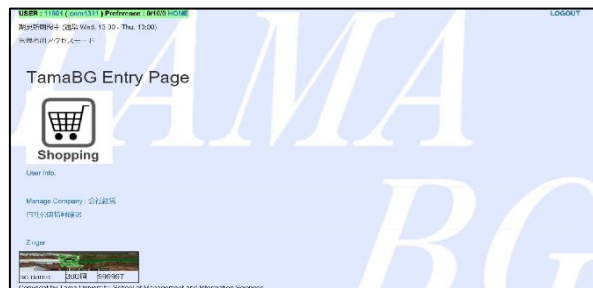
- ① デザインがシンプルすぎてゲームをしているという感じがしない。
- ② ユーザーが自由に変えられる個性が商品説明欄しかない。
- ③ コンピューターの画像サイズに合わせているためスマートフォン等でプレイしづらい。

[3]手法

TAMABGのデザイン・機能を変え、講義の受講者を対象として変更前(図2)と変更後(図3)でABテストを行い、その結果のアンケートとログ分析によってシリアスゲームの学習意欲が向上しているかどうかを判断する。



(図2 変更前)



(図3 暫定変更後)

[4]システム構成

TAMABGではPHP・MYSQL・Smarty(*1)を使用しているが、本研究の実施にあたって新しくBootstrap(*2)というフレームワークを導入した。これによりコンピュータとスマートフォンのような画像サ

イズの異なるデバイス（マルチデバイス）で見やすくなるレスポンス WEB デザインや、テーブルレイアウトを容易に実現できる。

現在追加された大きな機能として、バナーとレスポンス WEB デザインがある。

・バナー

ユーザーが自身の画像のバナーを商品につけることができる機能を制作した。

操作の流れとしては、アップロードと表示に分かれる。

アップロードでは、ユーザーがバナーを出したい商品と表示する期間を選択し、画像をアップロードする。システム側はその画像に名前をつけ、つけた名前をバナーのデータベース（DB）（図 3）に保存する。また、期間分のコストを企業の支出として計上する。

表示では、バナーの DB から、表示期間内にかつ、在庫のある商品のバナーの名前を取得して、ランダムで 4 つ表示させる。期間が過ぎたものはゲームが読み込まれた段階で DB の valid のカラムが 1 になり表示する選択肢からはずれる。

bannerid	startdate	enddate	cost	pid	ki	valid
バナーのID	バナーをアップした時間	バナーの有効期限	支払うコスト	商品ID	バナーがアップされた期	有効かどうか
61	2016-11-30 03:51:11	2016-12-14 03:51:11	200	3303	1	0

（図 4 DB 構造）

・レスポンスデザイン

Bootstrap では、「グリッドシステム」というページを 12 分割してコンピューター・タブレット・スマートフォンに応じた表示を出せる機能が備わっている。

これを使い、マルチデバイスで見やすいページを作ることができる。

基本の使い方は以下のコードの通りである。

```
<div class="container"><div class="row">
<div class="col-xs-12 col-sm-6 col-md-8">
</div></div>
```

（図 5 基本コード）

[5]期待される成果

本研究により

1. バナー機能による、ゲーム内での購入の増加
2. マルチデバイス対応による、プレイ時間の増加
3. デザインによる、事務作業のような感覚からゲームをしているという没入感

の 3 つの成果が期待される。

参考文献

- *1 Smarty 2016/11/30 <http://www.smarty.net/>
 *2 Bootstrap 2016/11/30 <http://getbootstrap.com/>

2016 年度 良峯 徳和 ホームゼミナール

『多摩地域のパワースポットの魅力を
脳波計測による生理学的指標の観点から分析する試み』

1. 今回の研究活動の目的

今回の試みでは、パワースポットにおける心の状態を脳波測定器で計測し、「快適度」「集中度」「リラックス度」という3つの観点からデータ分析を行うことで、パワースポットが心に与える何があるのかの作用を科学的に検証してみることが第1の目的である。このような科学的検証の成果を新たな PR 材料として、多摩地域にも点在するパワースポットの魅力と価値を世の中に広め、地域貢献につなげることも今回の目的のひとつである。

今回の発表では、多摩地域内およびその他の地域のパワースポットで行った脳波測定と、パワースポット以外の場所（大学研究室内）で行った脳波測定のあらましを述べるとともに、計測結果にもとづいて、パワースポットとそれ以外の場所で測定した脳波計測結果にどのような差が見られたかを報告、考察する。

2. 計測地として選んだパワースポットについて

(1) 奥多摩御岳綾広滝（東京都青梅市御岳）

標高 929 メートルの御岳山の頂上に、紀元前約 90 年、崇神天皇が創建した武蔵御嶽神社の社殿がある。御嶽山は古くより霊山として信仰されてきていた。中世関東の修験中心地として鎌倉の有力な武将たちの信仰を集め、修験者達の修行場である御嶽山。今では登山道が整備されており、山伏達が修行のために闊歩した道を現在では歩くことができる。現在も滝行が行われている綾広滝で脳波計測を行なった。古来より御嶽神社の禊（みそぎ）の神事が行われていた場所であり、大自然のパワーが心や脳に何らかの影響を与える場所とみなすのにふさわしいと考え、ここを選んだ。



(2) 聖蹟桜ヶ丘小野神社（東京都多摩市一ノ宮）

小野神社は、武蔵国開拓の祖神である天下春命（あめしのしたはるのみこと）を主神とした武州六大明神のひとつで由緒ある神社である。もともとは武蔵國一之宮とされており、格式が高い神社である。多摩大学の最寄り駅である聖蹟桜ヶ丘駅のすぐ近くに位置するパワースポットでもあり、多摩大生であれば一度は訪れておくべき場所であると考え、ここを計測地にした。



(3) 高松塚古墳（奈良県高市郡明日香村）

いうまでもなく、国宝となっている極彩色の石室壁画が発見された教科書等でも馴染みのパワースポットである。7 世紀末から 8 世紀初頭にかけて築造された終末期古墳で、1972 年に極彩色の壁画が

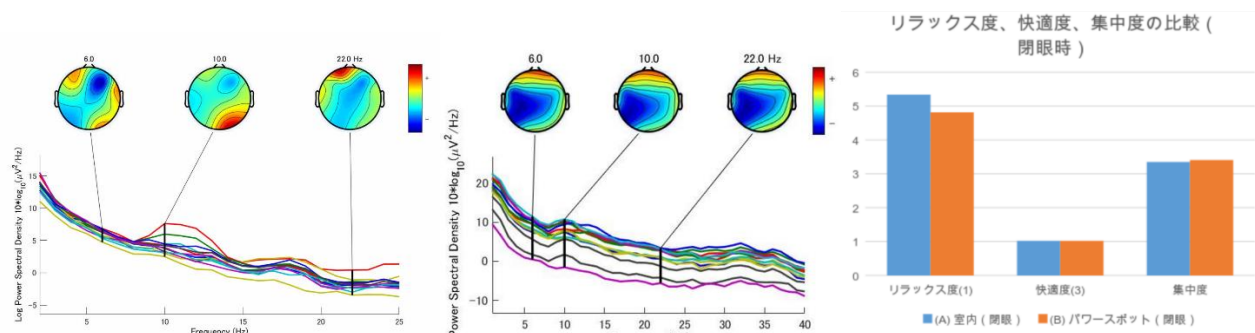


発見されたことで、飛鳥古墳の中でもっとも有名な古墳のひとつとなっている。

古来から変わらない大自然とそれに囲まれたこの古墳を訪れることで、飛鳥時代からの人と時間の流れをパワーとして感じられるかもしれないと考え、この地を計測地として選んだ。奈良県飛鳥地方ということで、多摩地域からは遠く離れているが、多摩地域以外に位置するパワースポットとの比較も将来的にホームゼミの興味深いテーマになりうると考え、野外実習を兼ねたゼミ旅行の目的地とした。

3. 計測実験方法について

今回の計測実験では、脳波測定器として EMOTIV 社の 14 チャンネル、サンプリングレート 128Hz の EPOC+ を使用し、得られた計測データに対して「快適度」「集中度」「リラックス度」の3つの観点から分析を行った。脳波は体の動きなどに非常に敏感に影響を受け、ノイズ（アーティファクト）が混入しやすい。よって今回は、被験者に静かにリラックスした状態で座ってもらい、閉眼・開眼それぞれ4分間の計8分間で脳波計測を行った。これによって得られた処理前のデータに対し、MATLAB という各種信号処理用のシステムに EEGLAB という脳波分析用マクロプログラムをアドインしたソフトウェアを使用して、ノイズの除去や周波数解析などの分析を行った。



※左図が研究室内での脳波計測データ例、中図がパワースポットでの計測データ例、右図は両者の比較である。

正直、明確な違いはでないだろうと思って始めたパワースポットでの脳波計測だったが、意外にも研究室内での脳波計測のデータに対し、ある程度はっきりした違いが現れて、少し驚いた。

全体的にパワースポットでは、「快適度」「集中度」の指数が研究室内よりも高いという結果が出た。とくに開眼時の方が閉眼時よりも脳波データにおけるパワースポットの優位がはっきり表れるということもわかった。

4. 今後の取り組み

なにより、データ件数が少ないため、今回の結論を一般化することはできず、継続調査が必要と考える。一言でパワースポットといっても、その特徴（温度・高度・明るさ・騒音・地磁気などの環境的要因、文化的背景など）がさまざまであり、今後はそうした環境要因などによる脳波への影響の計測にも取り組みたい。これによりさまざまな環境要因が人間の快適度にどのような影響を及ぼすのかなど、各場所がパワースポットとされる理由をより詳しく分析していきたいと考える。

ゲストハウスの現状調査と新ビジネスプロジェクト

中庭ゼミ 観光ビジネス班

鈴木・河野・金子・谷口・福田・真岸・石井・大水

【目次】

- 1、 タイトル
- 2、 ゲストハウスとは
- 3、 ゲストハウスを調査しようとした理由
- 4、 ゲストハウスを訪れてみてのメリット
- 5、 ゲストハウスを訪れてみてのデメリット
- 6、 7 表
- 8、 鎌倉ゲストハウスの情報
- 9、 鎌倉ゲストハウス宿泊者の生の声
- 10、 箱根ゲストハウスの情報
- 11、 箱根ゲストハウスオーナーさんにインタビュー
- 12、 13、 新ビジネスプランの提案
鎌倉ゲストハウスに欲しいサービス
- 14、 箱根ゲストハウスに欲しいサービス
- 15、 若者にターゲットを絞った新ビジネスプラン

MEMO

平成 28 (2016) 年度多摩大学アクティブラーニング発表祭配布資料

発表番号 C-13 ホームゼミナールにおける 2 ヶ月のアクティブラーニング活動報告

多摩大学経営情報学部梅澤ホームゼミナール広東財経大学交換留学生
李倩慈、李婉晴、謝少芳

はじめに

私たちは中国の広東財経大学交換留学生として 2016 年 9 月から 1 年間の予定で多摩大学での学習生活を始めた。講義を受講して知識を勉強するだけではなく、多摩地域や人々の暮らしを体験し日本と中国の社会、文化の違いをより深く理解したいと思い多世代交流をキーワードに住民や市民団体と連携してコミュニティデザインを学んでいる梅澤先生のゼミに参加することにした。

私たちは 10・11 月の 2 ヶ月間で 3 つのプロジェクト（以下、PJ と略す。）に参加した。参加した PJ は多摩グリーンライフ PJ、近隣交流七輪 PJ、みんなの食卓 PJ である。

今回のアクティブラーニング発表祭ではゼミの PJ 活動を通じて日本の家族や地域社会について学んだこと、気づいたことを報告するものである。各 PJ の詳細については紙面の都合上、本資料からは省略する。各 PJ の発表を参考にしてもらいたい。

参加プロジェクトの概要・考察・私たちの気づき

(1) 多摩グリーンライフ PJ

「小枝クリップのワークショップ」

【概要】10 月 30 日（日）10:00～15:00 多摩市立グリーンライフセンターにて「ハロウィン in 多摩センター 2016」と本施設の連携イベントの 1 つとして行われた木工ワークショップである。

【考察】中国では、子供も大人も環境意識は日本人より低い。そういう問題を発見する人がいるが、どんな取り組みでもなかなか抜本的に解決できない。子供たちも地域の自然美が感じられなくなった。

多摩市グリーンライフセンターには多様な草花が植えられるガーデンがあり、子供たちが楽しく遊べると同時に、「緑」意識を高めさせる自然環境も多摩市の住民たちに提供されている。

日本では西洋のフェスティバルが重視されているようである。町はハロウィンの装飾を凝らしており、多彩なハロウィンの催しが行われていた。

フェスティバルは大変な人込みだったが、皆ハロウィンの喜びにひたっていた。母親たちは子供に素敵な晴れ着を着せ、ペットまでにもかわいい服を着せている。女の子たちはプリンセスのようにきれいに化粧され、マニキュア液までも心を込めて塗ってもらっている。メイドのワンピースを着た女の子もいれば、天使の服を着た女の子もいた。また、武士の服や戦士の格好をした男の子もいた。

【私たちの気づき】

ハロウィンのイベントを通して皆一緒に座っておしゃべりをするなど、友好的な雰囲気になっていった。子供と父母はガーデンで花草を觀賞したり、一緒に遊んだり、一家団らのほほえましい風景が見えた。私は日本の子供になりたい。なぜなら、きっと非常に面白くて有意義な幼年時代を送ると思うからである。

(2) 近隣交流七輪とひじり館祭り

【概要】11 月 6 日（日）11:00～13:00、聖ヶ丘コミュニティセンター「ひじり館まつり」にて七輪を使用した近隣交流イベントを行った。6 日は強風のため、秋刀魚と焼きおにぎりは学生たちが調理して販売した。笑顔でお客様にサービスを提供した。

あわせて聖ヶ丘コミュニティセンター「ひじり館祭り」を見学した。おもちゃ病院、図書館や動物園が開設され、ファミリー体力測定、茶道体験、生涯学習の活動成果として手芸品等の展示館も見ることができた。市民が伝統工芸と茶道の文化を体験する機会であり地域文化の形成も推進されている。

【考察】子供たちのために無料でおもちゃを修理したりするプログラムを担当する方はお年寄りだということに気づいた。おもちゃ病院のお年寄りは、子供たちの壊れたおもちゃを熱心に修理しており温かみが伝わってきた。お年寄りは心から子どもたちのことを思っており、大切なおもちゃを直し、子供たちの純真な世界を守っている。以前、日本が高齢化という問題に直面していることを聞いていた。

若者が大都市に憧れ、地域向けの活動に参加していない。ジェネレーションギャップでお年寄りと子供たちに関心を持っている若者も少ない。若者はお年寄りと子供たちに対する一方的な思いを変え、他人のためにさまざまな非営利団体に加入したらよいのではないかと思う。

【私たちの気づき】

聖ヶ丘コミュニティセンターのことを見学してから、退職したお年寄りのライフデザインに注目するようになった。おもちゃ病院は確かによいアイデアだと思う。退職後のお年寄りに生き甲斐を創造する機会にもなっている。近隣にお年寄りが楽しんで活動できる場所があることは、非常によいことである。お年寄りはひじり館で工芸品を作ったり、音楽会を開催したり、充実した生活を送っているようである。ひじり館で学童の遊び場もあり、放課後の休憩室もある。お年寄りと子供がコミュニケーションをとるよい機会だと思う。

(3) みんなの食卓プロジェクト

【概要】11月27日、聖ヶ丘コミュニティセンターで「食卓プロジェクト」というイベントを行った。一人暮らしのお年寄りたちは子供たちと一緒に食事をしながら交流ができるようにやっている。いつも孤食している一人暮らしのお年寄りにとっては皆で食卓を囲む楽しさを感じられ、子供たちも今後お米を大切にしっかりとご飯を食べられるように工夫されているイベントである。

【考察】おにぎりを作る子供たちは速いスピードで茶碗にご飯を入れ、楽しそうに握っていた。ご飯は想像以上に早く使い切った。子供たちが「熱い、熱い、熱い」と言いながら、まじめにおにぎりを握っていた。お母さんたちは子供たちの後ろに立っていて、子供の様子を見守っている。その他に、出来上がったおにぎりを食べる前に、小学校5年生の子供たちは几帳面に米作りについて紹介してくれて勉強になった。

【私たちの気づき】

中国では、あまりお握りを食事として食べない。だから私たちがお握りを作るのは初めてだ。面白くて楽しかった。日本では、お母さんが忙しくて子供たちがちゃんとご飯を食べることができないということを知った。この前見たアニメの中で、息子が

忙しい親に無視され、固いパンを柔らかくするように、水に入れて食べる画面を見たことがある。まだ発育している子供はちゃんとご飯を食べなければならぬ。親がいくら忙しくても自分の子供の食事に注意を払うべきだ。だから「みんなの食卓プロジェクト」は大変意義あると思う。子供に簡単なおにぎりの作り方を教え、子供たちが自分でもおにぎりをにぎって食べることができるよう希望している。またお母さんたちが子供を教えると同時に、親子間のコミュニケーションもできよいと思った。

まとめ

この2ヶ月、皆様のお世話になり、いろいろな活動に参加させていただき誠に感謝している。

2ヶ月のゼミ活動を通じて、私たちは学習以外のことをたくさん学ぶことができた。何よりも多摩地域の生活文化と雰囲気を感じることができた。皆は個人として生きることだけではなく、結び合っている。コミュニティを支え、助け合う意識が強い。そのような意識はうちの国と比べて珍しいかもしれない。確かに世の中は個人で生きることは辛い。みんなの力を合わせて助け合うことで、孤独感が軽減され、充実した生活を送ることができる。

次はコミュニティセンターの関係者の活動に感心させられた。利益のためではなく、心から自分の住んでいる地域を守ることを目指し、子供からお年寄りまでの生活が心豊かになるようにいろいろな工夫をしてイベントを行っている。このような他人のためのボランティア精神があるからこそ、「和」を中心とした生活文化になるのだと思う。

最後は、世代間交流を通じて、人と付き合い物事に接する方法についても大変勉強になった。子供と付き合う時、面白い言葉を加えて興味を引いたら、スムーズに交流できることが分かった。お年寄りに接する場合は、敬語の使い方に気をつけることが必要であると考えた。様々な人と対話する時に、対象によって適切な言葉を使うことに注意しなければならない。

MEMO

<多摩大学へのアクセス>

【電車利用案内】

- ◎ 京王線新宿駅～聖蹟桜ヶ丘駅の所要時間→特急 23 分
- ◎ 京王線新宿駅～京王永山駅の所要時間→特急・急行乗り継ぎ 23 分
- ◎ 小田急線新宿駅～小田急永山駅の所要時間→代々木上原乗り換え多摩急行利用 33 分

【バス利用案内】

- ◎ 小田急線・京王線永山駅バス乗り場 2 番「系統永 34 聖ヶ丘団地行」
「系統桜 06 聖蹟桜ヶ丘駅行」(12 分)、「多摩大学」下車
- ◎ 京王線聖蹟桜ヶ丘駅バス乗り場 12 番「系統桜 06 永山駅行」(18 分)「多摩大学」下車

《永山駅→多摩大学》

8	05,15,29,49
9	09,29,49
10	09,29,49
11	09,29,45
12	00,15,30,45
13	00,15,30,45
14	00,15,30,45
15	00,15,30,45
16	00,12,24,36,48
17	00,12,24,36,48

《聖蹟桜ヶ丘駅→多摩大学》

8	02,14,26,40,52
9	12,32,52
10	12,32,52
11	12,32,52
12	10,25,40,55
13	10,25,40,55
14	10,25,40,55
15	12,27,42,57
16	12,27,42,54
17	06,18,30,42,54

<多摩キャンパス構内のご案内>

受付：正門から坂をのぼり、正面の建物のガラス扉から校舎にお入りください。アリーナ横を回った左手に受付がございます。



<お帰りのバス時刻表>

《多摩大学→永山駅》

12	07,25,40,55
13	10,26,41,56
14	11,26,41,56
15	11,28,43,58
16	13,28,43,58
17	10,22,34,46,59
18	11,23,35,45,57
19	09,21,33,45,57
20	09,21,33,45,57
21	09,20,30,40,50

《多摩大学→聖蹟桜ヶ丘駅》

12	11,26,41,56
13	11,26,41,56
14	11,26,41,56
15	11,26,41,56
16	11,23,35,47,59
17	11,23,35,47,59
18	11,23,35,47,59
19	11,23,35,47,59
20	11,23,35,47,59
21	09,29,52

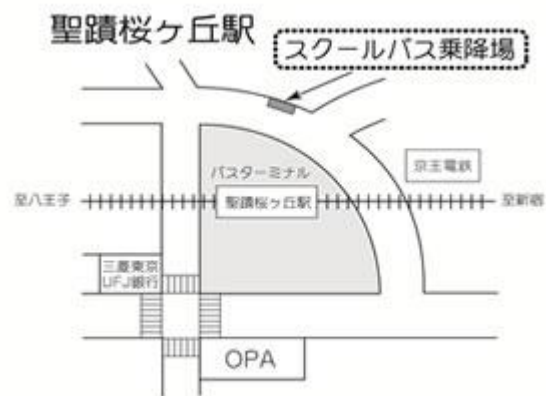
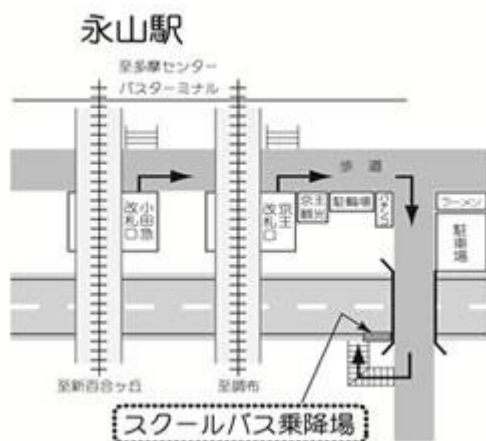
<スクールバスのご案内>

発表祭当日はスクールバスもご利用頂けます。

土 曜 日				
聖蹟桜ヶ丘駅 発	永山駅 発		中学・高校、大学 発	
中学・高校、大学 行		時	永山駅 行	聖蹟桜ヶ丘駅 行
25,35	5,20,30,45,50,55	7		
35	35	8		
15	20	9	45	
15	0,25	10	45	45
5	0,45	11	30,45,50	50
40	5,35	12	20,50	20
20,35	5,15,30,35,40	13	0	0,5※,45
5	20,55	14	40	40
0		15		30※
		16	30	0※,15※,30※,45※
		17	15,45	0※,5※,30※,45
		18		40※

※印のついた便は永山駅経由聖蹟桜ヶ丘駅行です。

- ・スクールバスは定員になり次第、発車します(定刻前に発車する場合があります)。
 - ・道路事情等、運行状況により上記時刻は変更になる場合があります。
 - ・所要時間は、学校⇄永山駅 片道約 10 分、学校⇄聖蹟桜ヶ丘駅 片道約 15 分の予定です。
- ただし永山駅経由は片道約 30 分となります。



多摩大学 教務課

〒206-0022 東京都多摩市聖ヶ丘 4-1-1

TEL:042-337-7113

FAX:042-337-7100